（加州人民直接立法ノ手続ニ依ル排日的土地法問題ヲ含ム）
二　加州排日問題解決ノ為ノ幣原及モリス両大使間非公式協議関係一件
三　米国ニ於ケル排日関係雑件
四　日仏通商条約関係一件
五　日露漁業協約ノ効力持続及改締関係一件
六　「カナダ」ニ於ケル本邦移民排斥関係一件
七　「オーストラリア」移民関係雑纂
八　「ペルー」移民関係雑纂
九　「ブラジル」移民関係雑纂

（以上上　巻）

事項一〇　露国革命関係一件

四七九　一月三日　在仏国松井大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

デニキン政権トノ通商開始交渉等ニ関スル高橋少佐ノ行動ニ鑑ミ南露及其他地方ヘ外交官派遣ノ必要ヲ稟申ノ件

第一号　（一月五日接受）

南露「デニキン」軍ニ派遣セラレ居ル高橋陸軍騎兵少佐発十二月二十日当地陸軍部着電（本電ハ陸軍大臣、参謀総長其ノ他ニ電報シタリ）ノ内左ノ文面アリ

曩ニ報告セルガ如ク南露ノ実況及露国ノ将来ニ鑑ミ南露貿易開始ノ必要ヲ認メ之ニ関シ必要ナル事項ヲ交渉セル処十二月五日附ニテ左ノ趣旨ノ回答ヲナセリ

一、日本ノ商船ハ黒海沿岸各港ニ出入シ貿易ヲ為スコトヲ得

二、日本ヨリ如何ナル物貨ヲモ輸入スルコトヲ得南露ヨリ日本ニ輸出スルモノハ日本ヨリノ輸入ト同額トス然レドモ左ノモノハ南露政府トノ協定ナクシテ輸出スルコトヲ得ズ即チ「パン」、石炭、金属、礦石、毛皮、煙草、塩、「ソーダ」、「アルコール」、「ベンジン」、葡萄酒、油粕之ナリ但シ右禁制品ハ早晩逐次減少セラルベク又南露輸出ニ際シテハ其価額ノ四〇「パーセント」ノ外国為替保障ヲ期ス

三、軍需品ニ対シテハ政府ノ所要ニ応ジ之ヲ購買ス

四、日本船舶ハ日本ノ国旗及船員ノ下ニ黒海沿岸航路業ヲ営ムヲ得ズ之レ石炭ノ供給困難ニシテ露国汽船ノ営業ヲ阻害スルニ至ルヲ以テナリ然レドモ石炭ノ余裕ヲ生ズルニ至ラバ之ヲ許スコトアルベシ云々

次ニ南露トノ通商関係ニ付長文ノ意見ヲ具申シアリ尚同少佐発二十五日当大使館着電ニ依レバ南露ニ於テ日露親善ヲ目的トスル機関新聞設立ノ目的ヲ以テ毎月約一万円ノ補助ヲ得タキ旨露国側ヨリ交渉ヲ受ケ同少佐ハ之ニ対シ右新聞設立必要ノ意見ヲ陸軍当局ニ上申シ居レリ

南露方面以外ノ地方例ヘバ波羅的、芬蘭、波蘭、「チェック」国、匈国及羅馬尼方面ニ対シ陸軍側ヨリ派遣セラレ居ル各員ハ其報告電報ニ徴スルモ軍人関係事項以外広汎ナル

政治外交ノ重要問題ニ触レ居ルコト多ク特ニ帝国側五大国ノ一員トシテ之等小国ノ運命ニ重大ノ関係ヲ有スルハ決定ニ参加シ来リシ関係上小国側ハ自国駐在ノ唯一ノ官憲タル陸軍将校ヲ通ジテ種々ノ交渉ヲ開キ来リ右等武官ハ茲ニ隠然帝国ノ代表者ノ観アルニ至レリ（脱）ラズ

南露「デニキン」ノ地位ハ素ヨリ速断ヲ許サザルモ或ハ今後同方面ニ永ク其勢力ヲ植エ付ケ得ベキヤ予断シ難ク従ツテ之ト通商条約類似ノモノヲ取極メ乃至英国勢力下ニアル「デニキン」軍ト親日運動ヲ開始スルガ如キ将来ニ対シ重要ノ政治的経済的意義ヲ有スベキハ申ス迄モナシ

就テハ陸軍側ニ対シ出張員ノ職責ヲ明ラカニセシムルト共ニ帝国ノ地位ニ伴フ為速ニ之等地方ニ適当ノ外交官ヲ派遣セラレ帝国将来ノ発展ニ資セラルルコト極メテ緊要ト思考ス

四八〇　一月十日　在瑞典国日置公使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

協商国ハ武力ヲ以テ露国過激派ヲ倒スヲ要ストノ仏国将軍ノ談話報告ノ件

第二号　（一月十七日接受）

一月七日「ヘルシングフォルス」来電、同地仏外交官（多分仏軍事委員長 Etievant 将軍）左ノ通語レリ

対過激派協商国間ノ一致ハ満足ナリ唯英国ハ武力干渉ニ対シ仏国程熱心ナラズ対過激派政策ハ二個ノ問題ヲ有ス

第一、協商国ハ過激派トノ関係ヲ結ブコトヲ好マズ若シ過激派カ内部ノ擾乱ニ依リ権力ヲ放棄スルニ至ラズハ武力干渉ヲ以テ倒スノ外無シ露国トノ講和条約締結ハ「レーニン」「トロツキー」ニ代リ権力ヲ取ルヘキ一層穏和主義者トニアラザレバ行ハレズ過激派顛覆ノ曙光見エズ協商国ハ武力干渉準備ノ為ニ突進セザルベカラズ

第二、攻撃ハ各戦線並列国間ニ一致ノ行動ヲ要ス各軍ヲ一指揮官ノ下ニ置クノ外実行ノ途無シ辺疆諸国間ノ競争心ニ顧ミ総指揮官ハ協商国任命スヘキモ其ノ各国及軍隊ノ信任ヲ負ヒ得ヘキ人物タルヘキハ勿論ナリ攻撃参与国ハ其ノ軍隊ヲ組織シ司令官ヲ任命スヘシ攻撃開始時期ハ海上交通ノ時期ニ依テ定マルヘシ「エストニア」ト露国トノ談判ハ協商国ノ態度ニ何等ノ影響ナシ「エストニア」カ過激派ト講和ヲ為スニ於テハ同国モ露国ト共ニ封鎖セラルヘシ西北露軍ニ関シテハ近ク最高会議ノ決議ヲ見ルヘシ Latvia 政府ハ協商国ト共ニ過激派ニ対シ進退スヘシ

近日「ヘルシングフォルス」ニ於テ辺疆諸国ノ聯合会議開催ノ由ニテ其ノ目的未タ詳細ニ知ルヲ得ザルモ対過激派問題（脱）

四八一　一月十日　在瑞典国日置公使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

露国過激派打倒ニ関スル仏国将軍ノ談話ニ付仏国公使ト会談ノ件

第三号　（一月十七日接受）

往電第二号仏国将軍ノ宣明ニ関シ当地駐在同国公使ト会談シタルニ右ハ本国政府ノ承認ヲ得タルモノニハ非ザル可キモ政府ノ意見モ蓋シ之ト大差ナカル可シ尠クトモ自分ノ私見ハ全ク将軍ノ所陳ト一致スト雖ドモ英国ガ対露態度ヲ一変シテ以来仏国ハ躍起トナリテ其ノ政策ノ実行ニ着手セルガ如キ模様アリ

四八二　一月二十日　在仏国松井大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

対露封鎖解除ニ関スル聯合国最高会議ノ決議ニ対スル仏国新聞論調報告ノ件

第一一八号　（一月二十二日接受）

露国封鎖解除ニ関スル最高会議ノ決議ニ付仏国新聞紙ハ之ヲ以テ専ラ英国カ亜細亜方面ノ為過激派ト妥協スル第一歩ナリトシテ反対ノ意見ヲ表示セルモノ多シ

Journal ハ英国ハ過激派カ波斯、小亜細亜方面ニ進出スルノ危険ヲ防カンコトニ腐心シ先キニハ君府ヨリ「シュルタン」ヲ駆逐スル契約ヲ抛棄シタルガ目下過激派ニ対スル防禦壁ヲ作ルニ苦心中ニテ高架索ノ二共和国ヲ承認センコトヲ提議シタル如キ其第一歩ナリ但シ英国カ斯ノ如ク過激派ノ南下ヲ防クニ熱心ナルニ拘ラズ過激派ノ西漸ヲ顧念セザルハ決シテ仏国ノ大陸ニ於ケル地位ヲ正当ニ了解セルモノト云フ可カラズ云々

「エコー、ド、パリ」曰ク封鎖解除ハ過激派政府ヲ承認スルニアラザレバ実際ニ何等効果ヲ得能ハザル措置ナリ英国ノ一部ニハ過激思想ヲ今以テ経済上ノ窮迫ニ基因スルモノトナシ経済条件ヲ緩和セバ過激派政府ハ軟化スベシトノ見解ヲ有スルモノアリ今日ハ更ニ原料品ノ不足ヲ補フ為露西亜ヨリ之ヲ輸入スベシトノ論ヲ生ズルニ至レリ然レドモ露西亜トノ通商ハ莫斯哥政府ト妥協シタル上ニアラザレハ実

行スルコト能ハズ其結果ハ過激派ノ(脱)カラシムル虞アリ加之欧洲ノ鉄道ガ今日ノ如ク疲弊シ船腹不足ハ羅馬尼ノ穀物サヘ搬出シ得ザル有様ナルニ如何ニシテ露西亜原料品ヲ搬出シ得ベキヤ惟フニ英国今回ノ提議ハ英国ノ内政問題ノ為ナランモ斯クノ如ク露西亜辺境ノ小国ヲ分裂セシメ露西亜本国ヲ過激派ノ手ニ委ヌルニ於テハ全露西亜ハ吾人ノ敵ト化スルニ至ルベシ云々

独リ Temps 新聞ハ最高会議ノ決定ヲ弁護シテ左ノ如ク云ヘリ

吾々ハ今三箇ノ危険ヲ眼前ニ控ヘ居レリ其一ハ「ボルシェビキ」ノ「プロパガンダ」ニシテ其二ハ「パン・トゥラニズム」其三ハ「パン・イズラミズム」ナリ然ルニ右三者ハ同一ノ傾向ヲ有スルモノニアラズ寧ロ互ニ利害ノ相容レザル点アリ吾人ニシテ同時ニ此三大勢力ニ敵対セバ三勢力ハ聯合シテ吾人ニ反抗ヲ試ムベク其勢力ハ侮リ難キモノアリ寧ロ逐次ニ解決ヲ試ミルニ如カズ英仏ハ露国人ノ同盟者タルト同時ニ多数ノ回教徒ヲ有スル国ナリ過激派ト戦フガ為露西亜人ヲ敵トシ且回教徒ヲ敵トスルコト能ハズ今回ノ封鎖解除ニ依リ一方ニハ露西亜人ノ窮状ヲ救ヒ他方ニハ欧洲ヘ原料品ヲ輸入シ得ベシ国内ニハ尚此点ニ就キ悲観論尠カラザルモ試ミタル上ナラデハ俄ニ結果ヲ知ルベカラズ従来ノ封鎖政策ハ過激派ヲ弱ムルニ何等ノ効果ナク而モ却テ過激派ニ有利ナル口実ヲ与ヘタルニ過ギズ云々

四八三　一月二十一日　在仏国松井大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

高架索地方ヘノ過激派軍ノ侵入防禦方法ニ関スル五国会議議事概要報告ノ件

第一二五号　（一月二十四日接受）

一月十九日五国会議々事概要左ノ通リ

「クレマンソー」ハ昨日辞表ヲ提出シタルモ本日ノ会議ニ出席シ英国ヨリハ「ロイドジョージ」「カーゾン」「チャーチル」「ウォターロング」出席シ露国問題ニ関シ「ジョルジア」「アゼルバイジャン」「アルメニア」ニ於ケル「ボリシェビック」軍侵入防禦方法ニ付議シ先ツ「フォッシュ」「ウィルソン」両元帥竝ニ「ビーチー」提督ノ意見ヲ徴セルガ両元帥ハ高架索地方特ニ「バクー」等ノ石油地方ヲ防禦スルニハ少クモ三ケ師団ノ兵力ヲ要スベシトノ意見ニテ（「フォッシュ」元帥ハ始メ「デニキン」軍ヲ利用スル考ナリシモ同軍ハ最早使用ニ堪ヘザル可ク且高架索人ノ反感甚ダシキヲ以テ此ノ考ヲ抛棄セル如シ）「ビーチー」提督ハ陸軍力ヲ以テ高架索ヲ固ク維持スルニ非ザレバ「カスピアン」海ニ於テ海軍力ヲ用フルコト不能ナリト述ベ次ニ「ロイドジョージ」ハ高架索地方民ニ武器ヲ供給スル可否ニ付意見ヲ求メタルニ「フォッシュ」元帥ハ此等人民ガ何程ノ軍事的価値アリヤヲ確メザレバ返答シ兼ヌルヲ述ベ「ウィルソン」「ビーチー」両将軍モ高架索ヲ保持シ得ルコト確実ナラズバ武器ヲ供給スルモ実益ナカル可シトノ意見ナリシガ「カーゾン」ハ「ジョルジア」「アゼルバイジャン」人ハ聯合国ヨリ援助ヲ得レバ「ボリシェビック」ニ対抗スベキ意嚮ナルニ付キテハ彼等ノ代表者ノ陳述ヲ聴カレタシト述ベ「ジョルジア」「アゼルバイジャン」代表者「チヘイゼ」「チェレテリー」等四名ヲ招キタルガ「チヘイゼ」ハ吾人等ハ「ボリシェビック」軍ノ侵人ヲ蒙ムル危険ヲ感ジ居ルモ聯合国ヨリ援助ヲ得レバ我等独立ノ為全力ヲ挙ゲテ「ボリシェビック」ニ対抗スベク又我等ガ聯合国ノ助ヲ得ルコトトナレバ「ボリシェビック」ハ敢テ侵サザル可シト述ベ「クレマンソー」ハ然ラバ「ボリシェビキー」ト妥協ノ余地アリヤト問ヘルニ対シ我等ノ仲間ニモ「ボリシェビキー」ニ同情スルモノアリタルガ是ハ共同ノ敵ナル「デニキン」アリシ為ナルガ若シ「ボリシェビキー」ガ高架索地方ノ侵略ヲ止メ我等ノ独立ヲ認ムレバ妥協ニ異存ナク又聯合国ガ我等ヲ助クレバ彼等ハ我等ノ独立ヲ認メザルヲ得ザル可シト述ベ「アルメニヤ」及「ダゲスタン」ノ独立承認ヲ求メタリ次ニ「ロイドジョージ」ノ質問ニ応シ前記代表者ハ各自ノ兵力ニ付述ベタルガ「ジョルジア」ハ人口三百万現在兵力ハ十六大隊（一大隊六百人）「ガルド、ナショナル」一万五千人ナルガ右五万人迄増加シ得「アゼルバイジャン」ハ兵数五万ナルガ武装サレタルハ一万二三千人ナリ最近公布サレタル徴兵法ニ依レバ十万人迄増加シ(脱)モノアリ又一部分ハ旧露国兵トシテ訓練セル者アリ尚「ロイドジョージ」ヨリ哥薩克ノ態度如何ノ問ニ対シテハ昨年春来「クバン」ニ独立運動起リ同政府「ラーダ」議長ハ「マガレンコ」ニテ巴里ニモ代表者ヲ出シ居ルモ果シテ真ニ独立ヲ希望セルモノナリヤ一時中立ノ姿トナリテ兵火ヲ免レントスルモノナルヤ真意ハ知リ難シト述ベ「ニッチ」ヨリ「デニキン」反対ノ理由ヲ問ヘルニ対シ「チヘイゼ」ハ「デ

ニキン」ハ露国ヲ統一シテ専制政府ヲ設立セントスルモノニテ我等ノ独立ヲ否認シ高架索地方ヲ攻略スルコト比較的ニ容易ナリト答ヘタル如シト云ヒ「ロイドジョージ」ヨリ「デニキン」ガ「ウクライナ」ニ於テ不人望ナリシ理由ハ彼ガ農民ガ得ル土地ヲ恢復シ中央集権政府設立ノ政策ヲ執リタル為ナリト答ヘタリ右等代表者退席ノ後「チャーチル」ハ「フォッシュ」元帥ニ向ヒ同元帥ノ高架索ニ関スル計画ハ「ボリシェビキー」ニ対スル全部ノ計画ノ一部ヲナスモノナリヤト謂ヘルニ対シ「フォッシュ」ハ「ボリシェビキー」ニ対シテハ一部的計画有リ得ベカラス今ヤ彼等ハ広汎ナル領土ト多大ノ資源ヲ有シ且失職シタル独逸将校ヲ多数ニ用ヒ居レリ之ニ対シテハ吾人ハ全部ノ師団ヲ用ヒザルガ為ニハ（不明）ノ諸小国波蘭、羅馬尼、芬蘭、「エストニヤ」高架索等ニ援助ヲ与ヘ「ボリシェビキー」ノ発展ヲ阻止セザル可カラズ然シテ彼等ハ何レノ方面ニ向ツテ侵略シ来ルヤ計ル可カラズト述ベ更ニ「チャーチル」ハ彼等ハ波蘭ニ攻メ来ル形勢ナキヤト問ヘルニ対シテハ夫レハ今ヨリ断言シ難シト答ヘタリ

右終リテ「ロイドジョージ」ハ秘密会議ヲ求メ軍事代表者退席シタル後「カーゾン」ヨリ先日「ジョルヂア」「アゼルバイジャン」政府事実上ノ承認ヲ提議シタル際特ニ「アルメニア」ヲ除キタルハ「アルメニア」ニ関シテハ土耳古問題解決ノ際決定スベキモノナリト思考シタルニ基ケルガ同国ノ事情ハ之ガ事実上ノ承認ヲ与フルニ強キ理由（strong case）ヲ有スルモノナレバ他日同国ノ国境ヲ定ムルニ対シ何等ノ拘束ヲ与ヘザル条件ヲ以テ「アルメニア」（露領ヲモ含ム）ニ事実上ノ承認ヲ与フベキヲ提議シ「クレマンソー」及「ニッチ」之ニ同意シタルガ本全権及米国大使ハ何レモ本国ニ請訓スルコトトナリタリ次ニ「チャーチル」ヨリ右ニテ政治上ノ問題ノ決定ヲ見タルガ軍事上如何ナル措置ヲ執ルベキヤト質シタルガ「ロイドジョージ」及「クレマンソー」モ三ケ師団派遣ノコトハ到底問題トナラズトノ口吻ナリシガ武器供給ノ件ニ付「ロイドジョージ」ハ「ジョルヂア」等ハ聯合国ガ武器食糧等ヲ供給スレバ「ボリシェビック」ト対抗スベシト謂ヒ居リ又吾人ガ彼等ヲ助クレバ「ボリシェビック」モ彼等ヲ征服セント試ミザル可ク尤モ「バクー」ニ付テハ多少危険アルモ同地「アゼルバイジャン」人ノ守備兵アリ最悪ノ場合ヲ考フルモ多少ノ小銃食物等ガ「ボリシェビック」ノ手ニ落チタレバトテ大ナル害ハナカル可シト謂ヒ「クレマンソー」ハ軍人ハ多少躊躇シ居ルモ自分ハ此際直チニ武器ヲ供給スル方可ナラント思フ旨ヲ語リタルガ「ニッチ」ハ伊国議会ハ露国内部ノ争ニ干渉セザル可キ決議ヲ為シタルヲ以テ之ニ同意スルコト困難ナリト述ブルヤ「カーゾン」ハ伊国ハ高架索地方ニ武器ヲ供給サレタルコトヲ聞キ及ビタリト詰リタルニ「ニッチ」ハ之ハ内密トシテ申上グル次第ナルガ個人トシテ高架索ニ赴キ又ハ武器ヲ輸入スルモノハ差止メザル可シト述ベタリ尚供給スベキ武器ノ数量及輸送方法ニ付テハ軍事代表者ニ研究セシムルコトトナリタリ

在欧米各大使ヘ転電セリ

四八四　一月二十八日　在仏国松井大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

露国過激派ノ各方面ヘノ進出ニ対スル防禦ノ問題其他一月二十八日ノ大使会議議事概要報告ノ件

第一七二号　（一月三十日接受）

一月二十一日ノ五国会議決議ニ従ヒ本日ヨリ大使会議開催仏「ミルラン」ハ「カンボン」「ベルトロー」ヲ補佐トシテ議長席ヲ占メ英「ロード、ダービー」米「サーレス」伊「ボナンロンガール」竝ニ本使出席ス議事概要左ノ通リ

一、蘭国政府ノ独帝引渡拒絶ニ関シ往電第一六四号ノ通リノ議事アリタリ

二、往電第一二八号塞爾比ノ回答ニ関シ通信機関ノ故障ヲ理由トシテ同国委員ヨリ一月二十八日迄右回答延期アリ度キ旨申出アリ英伊共別ニ異議ナキ旨ヲ述ベ依ツテ右延期方可決セラレタリ

三、洪牙利官憲ノ態度不都合ナルヲ名トシ羅馬尼占領軍司令官ヨリ Theiss ノ通路閉塞ノ命令ヲ発シタル為「ブダペスト」ノ給養状態著シク窮迫シ居ル趣ヲ以テ在同地聯合側委員ヨリ五国会議ニ於テ適当ノ措置ヲ執ラレ度キ旨陳情ノ次第アリ「ベルトロー」ハ依ツテ聯合国委員ヨリノ電報ヲ目下滞巴中ノ羅馬尼首相ニ示シテ其注意ヲ促シタルニ同首相ハ五国会議ノ志ニ副フベキ取計ヲナスベキヲ約シタル趣ヲ報告シ依ツテ本件別ニ討議セズ

四、最近各方面ニ於ケル「ボルシェビック」ノ進出ニ伴ヒ波蘭漸ク危険ヲ感ジツツアリ依ツテ羅馬尼、波蘭及波羅的

諸邦ヲ通シ「ボルシェビック」ニ対スル防禦ノ方法ヲ設クルコト急務ナル処之ガ為ニハ五国会議ニ於テ相当ノ支持ヲ与フ可キヲ決セラレ度キ旨波蘭外務大臣「パクカ」ヨリ陳情ノ次第アリ之ニ関シ「ウェガン」将軍ハ単ニ軍事上ノミナラズ交通機関ノ維持並ニ補給ノ確保ヲ与フル見地ヨリスルモ右防禦線ヲ確立シ以テ「ボルシェビック」ノ前進ニ対シ全欧洲ノ保護ノ策ニ出デザル可カラザルハ当然ナルモ之ガ実行ニ当リテハ先ツ聯合側ノ政治上ノ了解一致ヲ得ルコト必要ニシテ軍事会議ハ其了解ニ従ヒ之ガ実現ヲ躊躇スルモノニ非ザル旨ヲ報告シタルガ「ロード、ダービー」ハ「パクカ」ハ目下倫敦ニ於テ「ロイド、ジョージ」ト会見シテ波蘭方面ノ実情ヲ説明シツツアルヲ以テ本件ニ関スル政治上ノ了解云々ノ問題ハ右倫敦会議ノ了ル迄延期アリ度キ旨ヲ希望シ「ミルラン」モ之ガ延期ニ賛成シタルモ仏国政府ハ人道上ノ見地ヨリ露西亜人ニ経済的援助ヲ与フル為通商開始ニ賛同シタルモ露西亜ノ事実上ノ政府トハ何等ノ関係ヲ保ツコトヲ信ズルモノニアラズ従ツテ「ボルシェビック」ニ対スル共同ノ戦線ヲ設クルモ右ハ全ク防禦的ノモノニ止マル旨ヲ附言シタリ

五、国境劃定委員ノ組織及権限ニ付独逸委員ヨリ国境劃定ノ中央機関ニ独逸代表者ヲ出席セシメ度ク各委員長ノ選出ニ際シテハ独逸委員参加シタシ等数個ノ苦情申込アリタルニ対シ「ルロン」将軍ヨリ右中央機関ハ講和会議ニ依リテ組織セラレ同会議ノ決議執行ヲ其任務トスルモノナルヲ以テ独逸代表者ノ出席ハ承諾スル能ハズ而シテ各委員長ニ付テハ既ニ選出済ナルヲ以テ独逸委員参加ノ途ナシ等ノ理由ヲ以テ独逸ノ申立一切ヲ拒絶ス可キ書翰ヲ送ルコトトシタル旨ヲ報告シ「ロード、ダービー」ヨリ二三ノ質問アリタル後「ルロン」ノ提議ヲ承認シタリ

六、瑞西国際聯盟加入問題ニ関シ二ケ月ノ加入申込期間ニ付キテハ「フロマジョー」ヨリ起草委員会ニ於テモ国際聯盟規約ノ挿入セラレタル孰レノ講和条約ニ於テモ之ヲ引用シテ其実施セラレタル時ヨリ二ケ月内ハ加入申込可能ナルモノナリト解釈スル旨往電第一六五号ノ二ヲ以テ報告シタルガ「ロード、ダービー」ハ右ハ聯盟加入ノ条件ナルヲ以テ聯盟理事会ニ於テ決定ス可キ事柄ナルヲ述ベ「ミルラン」ハ之レ全ク条文ノ解釈ナルヲ以テ之ヲ起草シタル五大国ニ於テ其意義ヲ決定ス可キモノナルヲ主張シテ一致セズ瑞西ニ対シテハ其ノ中立維持ヲ加入ノ条件トスルノ問題(不明)ニ付之ヲ国際聯盟理事会ヲシテ審議セシムルコトニ決シタル旨回答ヲ発スルコトトシタリ

七、敵艦引渡要求問題ニ付対独条約第一八五条及第一九二条ノ解釈ニ関シ英国ハ戦艦ノミヲ（脱）船具其他ノ備品ハ之ヲ取リ外ヅシ破壊セシム可キヲ主張シ仏国ハ備品等ヲモ引渡サシム可キヲ主張シ伊国ハ仏ニ加担シ我ガ大角大佐ハ英国ノ見解ニ従ヒタル為海軍会議ニ於テ意見纏ラズ依ツテ之ヲ本会議ニ提出シタリ「ロード、ダービー」ハ本件急速解決ヲ見タキ旨ヲ述ベ「ミルラン」ハ仏国閣議及議会開会期日等ノ関係ニ鑑ミ毎週二回（月曜及木曜）開会シ度キ積リナルヲ述ベタルニ「ロード、ダービー」ハ敵艦引渡ハ焦眉ノ問題ナルヲ以テ本日ニモ之ヲ解決シ度キヲ主張シ依ツテ午後ヨリ再ビ会合スルコトニ決セリ

英、米、伊ニ転電セリ

四八五　二月十二日　武田陸軍少佐ヨリ　上原参謀総長宛（電報）

露国過激派政府ノ対米関係、シベリアノ利権許与等ニ関スル意向ニ付布施通信員ノ質問ニ対スルヨッフェノ回答報告ノ件

第四号　（二月十八日外務省写接受）

小松原大尉ガ「エストニア」日本通信員布施ヲシテ過激派嬢和委員長「ヨッフェ」ニ会見セシメ左記質問ニ対シ意見ヲ問ハシメタリ其ノ要領

1、問　米軍カ西伯利撤退ノ際過激派ト何等カノ交渉ヲナセシカ

答　米国トハ今日迄ニ何等ノ交渉ナシ米国政府ハ在米過激派代表者ヲ捕縛セリ露米ノ関係ハ目下不良ナリ（備考、二月五日過激派委員一行ガ「モスクワ」ニ引上ノ際米国通信員カ之ト同行セルハ注意ヲ要ス該通信員ノ米政府ヨリ委任ヲ受ケシコト事実ナリ）

2、問　露ハ将来何レノ国ニヨリ経済上ノ援助ヲ期待スルヤ

答　露ノ最必需品ハ輸転材料ナリ次ニ諸機械並ニ薬料品トス英国ハ機械類ノ一部ヲ供給シ得ルニ過ギズ仏国ハ全然其力ナシ独国ハ目下期待シ得ルモ国内ノ情況困難ナル点アリ露国ハ貿易品ニ対シ原料品

ヲ以テ物々交換ヲ為スベキモ輪転材料ノ如キ大ロノ注文ニ対シテハ唯利権ヲ保証トスル借款ニヨル外ナシ

3、問　西伯利ニ於ケル利権ヲ日本ニ譲与スルノ意ナキカ

答　労農政府ノ憲法及法律ヲ承認シ且将来経営物ヲ露ニ継承スルヲ保証スルニ於テハ日本タルト米国タルトヲ問ハス新設利権ヲ譲与スルニ吝ナラズ

4、問　米国ニシテ既設鉄道ノ経営権ヲ所望セバ如何

答　絶対ニ否認スルヲ得ザルモ既設鉄道ノ利権ハ万々譲ルコトナカルベシ但シ新設鉄道ハ別問題トス

以上「ヨッフェ」ノ意見ヲ綜合スルニ

一、米国ハ未タ過激派ト妥協スルニ至ラズ但シ其準備ヲナシアリ

二、経済上露米ノ接近ハ自然ノ数ナリ

三、米国商品供給ニ対シテハ利権譲与ノ意嚮アルノミ

四、米ニシテ過激派法律ヲ承認セハ新設利権ハ勿論既設利権ノ譲与モ絶対ニ望ナキニアラズトノ結論ニ達ス

四八六　二月十二日　在英国珍田大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

英国首相ノ下院演説中露国問題ニ関スル部分ニ付報告ノ件

第六三号　（二月二十日接受）

二月十日皇帝臨御議会開院式挙行セラレタルガ勅語ハ内政問題ヲ主トシ外国ニ関シテハ独逸トノ国交回復ト講和会議未解決重要問題結了竝東部欧羅巴及露国ノ経済的回復ニ関スル希望トヲ叙セラレタルニ止マリタリ同日下院ニ於ケル首相ノ演説中露国ニ関スル部分ノ趣旨大要左ノ如シ

露国ノ資源国力富力ノ回復ヲ図ルニアラズンバ欧洲ノ復興ハ得テ之ヲ期スベカラズ「ボルシェビズム」ハ「デモクラシー」ニアラズ故ニ反「ボルシェビック」ノ治下ニ露国ノ復活ヲ図ルハ何人モ希望スル所ナリシサレドモ「ボルシェビズム」ノ武力撲滅ハ到底不可能ニシテ余ハ一年前以来右所信ヲ持スルモ尚其ノ誤ラザルヲ確信スルモノナリ不幸右ノ所信ニ基ケル提案ハ露国各団体ノ聴ク所トナラザリシヨリ玆ニ新方針ヲ画スルノ必要ニ遭遇ス試ミニ問ハン㈠過激反過激両派ヲシテ闘争ヲ継続セシムヘキカ、否ナ過激派軍ハ益々優勢ヲ加ヘツツアリ反過激派ニ勝利ノ望アルナシ㈡反過激軍ハ果シテ歓迎サレツツアリヤ、否ナ南露ニ於テハ人心ヲシテ乖離セシメタリ㈢過激派ハ今尚暴戻ナリヤ、否ナ過去ノ経験ハ彼等ニ反省ヲ教ヘ今ヤ漸ク興望ヲ収メツツアリ故ニ過激派ニ対スル圧迫ハ同派ヲシテ武断暴逆ヲ敢テセシムルノ基因トナリテ何人モ利スル所ナキコト炳乎トシテ火ヲ睹ルカ如シ翻ッテ考フルニ㈠何レノ国カ能ク過激派膺懲ノ衝ニ当ルベキ、芬蘭波羅的諸州波蘭羅馬尼日本悉ク其ノ意ナシ㈡仮ニ能ク之ヲ為シ得ルモノアリトセンカ此種外国干渉ノ如ク愛国心ヲ唱道シ露国人ヲ過激派側ニ走ラシムルノ捷径他ニアルナシ㈢而シテ巨大ノ軍費何国ニ於テ負担スベキヤ、英仏伊米何レモ之ヲ欲セズ然リト雖「ソビエット」政府ニシテ速ニ蛮行ヲ棄テテ文明的統治ヲ為スノ確証ヲ示サズ将又全露ヲ代表スルノ政府樹立セラレザル以上直接平和ヲ結バント欲スルモ亦不可能事ニ属ス依ッテ現下露国ヲ救フノ途ハ一ニ通商再開ニアリトス通商ノ開始ハ露国人反省自覚ノ緒トナリ物資ノ交換ヲ促シ軈テ物価騰貴ニ苦メル欧洲ヲ救フノ途タルヘシ過激軍ノ侵入ヲ危惧スルカ如キハ過激軍ノ力ヲ過大視シ若ハ隣境諸国ニ過激軍侵入ヲ誘フヘキ物資ナキヲ知ラザル一片ノ杞憂ニ過キザルナリ云々

四八七　二月二十三日　在仏国松井大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

仏国政府ノデニキン政権承認ノ意向ニ関連シ入手シタル情報ニ付珍田大使ニ通報ノ件

第三二七号　（二月二十五日接受）

本使発在英大使宛電報貴大臣参考迄ニ転電ス　第一七七号

上田ガ「ノトウィッチ」ヨリ得タル情報ニ拠レバ二月十九日当国首相ヨリ招請意見ヲ徴セラレタル際同人ハ最高会議ニ於テ㈠仏国側ヨリ「デニキン」正式承認ヲ提議スルト共ニ㈡「セメノフ」ヲ西比利亜秩序恢復ノ為臨時政府トシテ承認ノ動議提出方勧奨シタルニ「ミルラン」ハ之ヲ首肯シタル後何レ珍田大使トモ此点ニ付御相談ノコトトナル可キ旨ヲ述ベタル由ナリ尚仏国外務省ハ「ロイドジョージ」ガ過激派政府ト成ル可ク妥協ノ素地ヲ作ルニ努メ「デニキン」承認トハ反対ノ傾向ヲ執リ居ル旨ノ情報ヲ有スル趣「ノトウィッチ」ノ報告アリ何等御参考迄ニ

四八八　二月二十五日　在英国珍田大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

倫敦首相会議露国問題ニ関スル同盟国ノ政策

公表ノ件

第一一四号　（三月三日接受）

首相会議ハ二月二十四日左ノ通公表セリ

Allied Policy in Russia.

Conclusions reached by Supreme Council on February 24, 1920.

Allied Governments have agreed on the following conclusions:—

If communities which border on frontiers of Soviet Russia and whose independence or *de facto* autonomy they have recognized were to approach them and to ask for advice as to what attitude they should take with regard to Soviet Russia, the Allied Governments would reply that they cannot accept responsibility of advising them to continue war which may be injurious to their own interest. Still less would they advise them to adopt policy of aggression towards Russia. If however Soviet Russia attacks them inside of their legitimate frontiers, the Allies cannot enter into diplomatic relations with

Soviet Government in view of their past experiences until they have arrived at conviction that Bolshevist horrors have come to end and that Government of Moscow is ready to conform its methods and diplomatic conduct to those of all civilized Governments.

British and Swiss Governments were both compelled to expel representatives of Soviet Government from their respective countries because they had abused their privileges.

Commerce between Russia and rest of Europe which is so essential for improvement of economic conditions not only in Russia but in rest of world will be encouraged to utmost degree possible without reservation of attitude described above.

Furthermore Allies agree in belief that it is highly desirable to obtain impartial and authoritative information on conditions now prevailing in Russia. They have therefore noted with satisfaction the proposal before International Labour Bureau which is branch of the

League of Nations to send commission of investigation to Russia to examine facts. They think however that this inquiry would be invested with even greater authority and with superior chances of success if it were made upon initiative and conducted under supervision of Council of the League of Nations itself, and they invite that body to take action in this direction.

Chinda.

四八九　二月二十七日　在英国珍田大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

二月十九日倫敦首相会議ニ於テ対露通商再開、波蘭ノ露国過激派政府トノ講和、露国実情調査隊ノ派遣等ノ問題ニ付協議ノ件

第一二八号　（三月二日接受）

倫敦首相会議第十四（二月十九日午後出席者前回同断）

露国問題

「ミッチ」氏ハ前回ノ「ベルトロー」氏所説ニ全然反対ナルヲ述ベ自分ハ由来保守主義者ニシテ過激派ノ蒙昧、狼藉ヲ嫌忌スルモノナリト雖モ同盟諸国ニ原料品ヲ輸入シ物価

ノ騰貴ヲ阻止スルノ策ヲ講ズルニアラズムバ各国内労働運動ノ勢益々募リ一般経済的大破綻ヲ招クノ惧ナシトセザルニ付同盟諸国ハ露国ノ内政ニ干渉スルガ如キコトナク協同シテ視察委員ヲ露国ニ派遣シ其ノ実状ヲ審査セシムルノ緊要ナルヲ信ズル旨ヲ叙述セリ

次デ本使ハ日本ハ主トシテ西比利方面ヨリ観察スルモノナルモ露国西部ニ対スル政策ハ直チニ東部ニ反映スルヲ以テ露国問題ハ東西一括シテ考察ヲ加フルコトヲ要ス此ノ見地ヨリ自分ハ大体「ベルトロー」氏ト見解ヲ同ジウシ出来得ル限リ現過激派政府ヲ隔離絶縁シ置クノ必要ヲ信ズルモノナリ尤モ自分ハ決シテ産業組合ト商業関係ヲ再開スルノ可否ヲ論ズルモノニアラズ其ハ過激派承認問題トハ自ラ別問題ヲ為スモノナリ「ミッチ」氏ハ過激派主義ハ露国内部ノコトニシテ吾人ノ干与セザル所ナルノ意ヲ述ベラレタルモ過激派主義ハ全世界ヲ其ノ舞台ト見做シ居ルガ故ニ若シ過激派主義ニシテ全西比利ヲ席巻セムカ直チニ支那特ニ満州ヲ脅スベク其ノ蠱毒支那ニ浸潤セバ禍害ノ及ブ処決シテ極東ニ限ラズ全世界ニ影響スベキ大問題ナリ自分前回当地首相会議ノ際内田外務大臣ノ所見トシテ日本ハ過激派ニ対シ

積極的攻撃ニ出ヅル能ハザルモ其ノ貝加爾以東漸進ヲ阻止スルノ緊切ナルヲ認ムル旨ヲ述ベタリシガ日本政府ハ其ノ後此ノ意見ニ於テ米国政府ト交渉スル所アリタルモ米国ハ西比利撤兵ニ決シタルノミナラズ爾来事態益々険悪ニシテ「コルチャク」政府遂ニ破レ日本此ノ局面ニ当ラザルベカラザル形勢トナリタリ日本ガ向後独力ヲ以テ此ノ局面ヲ維持スベキヤ将タ断然撤兵スベキヤハ刻下日本政府ノ熟慮中ニ属スル問題ナリ現下西比利ニ於ケル我兵力ハ四五万ニシテ漸ク鉄道ノ守備、「チェック」兵撤退ノ保護ニ当リ得ルニ過ギズ此ノ故ニ我政府ニシテ撤退ニ決スルモ夫レハ全ク之レ以上単独過激派ニ対抗スルノ不可能ナルガ為ニシテ決シテ過激派ト講和セント欲スルガ故ニアラズ之ヲ以テ自分ハ現下過激政府ノ勢力ヲ増スガ如キ如何ナル政策ニテモ欧露方面ニ於テ之ヲ取ルコトニ対シテハ到底同意スルコトヲ得ズト述ベタリ

茲ニ於テ「ロイドジョージ」氏ハ皮相ノ観察ヲ加フルトキハ双方ノ所見ハ枘鑿相容レザルモノノ如キモ実ハ問題ノ着眼点ヲ異ニスルノミニシテ論旨ノ実質ハ却テ相同ジ仏国及日本代表者ハ過激派ノ惨禍ヲ説キ伊国代表者ハ露(脱)関係ヲ

速ニ再開スルノ必要ヲ論ゼルモ而モ何人モ過激派政府承認ヲ提唱スルモノナク又何人モ通商再開ヲ否ムモノナキ点ニ於テ一致セリ英国政府モ過激派政府ニシテ文明国政府ノ慣行ヲ守リ従来ノ虐政ヲ止メ宣伝等ニ依ル他国ノ内政干渉ヲ全廃スルニアラズンハ之ヲ承認スルコト能ハズト述ベ次テ本日英国議会ニ於テ提起スル問題ノ一ナリトシテ「エストニア」ハ既ニ過激派政府ト講和シ「ラトヴィア」モ亦将ニ講和ヲ実現セントシ接壌地方中和議未タ成ラザルハ「リツアニア」波蘭及羅馬尼ナルガ波蘭ハ最近過激派政府ヨリ寛大ナル条件ノ講和申込ヲ受ケ居リ或ハ其ノ取ルベキ態度ニ付同盟側ノ助言ヲ求メ来ルコトナキヲ保セズ其場合ニハ(A)自ラ決定ヲ下スベシ(B)講和セザルコトヲ勧告ス(C)露国版図内ニテ攻撃ヲナシ又ハ寛大ナル講和申込ヲ排シテ攻撃ヲナストキハ支援ヲ与ヘ難キモ過激派ニシテ波蘭ニ侵入セバ出来得ル丈ノ支援ヲ与フベシ等ノ諸回答案中何レヲ採用スベキヤ自分ノ考ニテハ今回過激派ノ提案ハ寛容有利ナルヲ以テ波蘭ニシテ之ヲ拒否シテ攻撃ノ態度ニ出ヅル場合ニハ英国ハ到底支援ヲ与フル能ハズト云ヒ次ギニ「ニッチ」ノ視察隊ヲ露国ニ派遣セントスルノ案ニ付テハ露国事情ニ関ス

ル各種ノ報告支吾扞格ヲ極メ真情全ク不明ナルニ顧ミ自分ノ全然賛同スル所ナルモ同盟側ニ於テ露国ニ視察隊ヲ派遣スルハ過激派政府未承認ノ今日自ラ異議アルベキカト思考スルニ付国際聯盟ヲシテ之ヲ派遣セシムルコト可然乎ト提言シ尚露国(脱)ノ儀ナラハ英国丈ニテモ貨車三千機関車七十台ハ立所ニ支給シ得ベキヲ以テ同盟諸国到ル所物価ノ暴騰ニ困シミ民心甚ダ不安ナル此際露国過激派ト戦フモ国内ニ過激派ノ勃発ヲ見ルナキヲ保セザル現状ヲ救済センガ為利用シ得ベキ露国内現存ノ物資ヲ視察隊ニ於テ調査スルハ自分ノ切望スル所ナリ又飜ッテ思フニ同盟側ニシテ従来ノ態度ヲ墨守スルコトヲ止メ早キニ及ンテ物資給与方法ニ依リ露国人民ニ親近スルノ策ヲ講ズルニアラズンハ或ハ露国一億ノ民衆ヲ駆リテ軍国主義ニ化セシムルニ至ランコトヲ恐ル仏国革命後列国策ヲ誤リ仏国ノ新国家ヲ誘致シ奈翁ノ跳梁ヲ招キタル歴史ノ教訓ハ決シテ忘ルベカラズト述ベタルノ後左ノ諸点ニ付一同ノ非公式意見ヲ求メタリ

イ、支援ヲ約シテ波蘭ノ戦争継続ヲ助クベキヤ

ロ、露国トノ講和ニ付波蘭ヨリ助言ヲ求メ来リ其条件有利ナル場合ニハ同盟側ハ波蘭ニ之ニ応ズベシト答フベキヤ

ハ、波蘭ニシテ同盟側ノ助言ヲ求ムルコトナク露国ノ講和提議ヲ斥ケタル場合ニハ爾後ノ戦争ニ付波蘭ヲ支援スベキヤ

ニ、同盟側ハ露国人民ニ付テハ通商関係ヲ継続スルコトトスベキヤ

ホ、国際聯盟ヲ通ジテ露国真相闡明ノ方法ヲ取ルベキヤ

尚過激派政府ヲ承認スベキヤノ点モ衆議ニ附スル積リナリシモ一同反対ナルコト明カナルニ付撤回スル旨ヲ弁解セリ前段ニ記述セル如ク英首相ハ会議前ニ於テ確的ノ提議ヲ有スルコトヲ披露シタルヲ以テ各国輿論ノ趨勢ニ顧ミ何等カノ形式ニ於テ過激派政府トノ講和ヲ提議セントスルノ底意ナリト予想シタルニ事茲ニ出デザリシハ頗ル意外ニ感ゼラレタリ「ベルトロー」氏ハ右ニ対シ「ミルラン」氏渡英ノ上協議スルコトトシ度キ旨ヲ述ベタリ

在欧米大使ヘ転電セリ

四九〇　三月二日　在英国珍田大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

露国実情調査団派遣ヲ国際聯盟ガ決定セル場合我方参加団員ノ人選ニ付稟申ノ件

第一三三号　（三月五日接受）

露国実情調査員派遣ヲ議題トセル国際聯盟理事会本月十二日巴里ニ於テ開会ノコトニ決セル由ノ処同事務局ヨリ内密ニ右派遣決定ノ上ハ六ケ国ヨリ各一名外ニ国際労働事務局ヨリ二名ヲ以テ右視察団ヲ組織スルノ提案ヲナサントスルニ付テハ本邦ヨリハ何人ヲ指名スルコトトスベキヤトノ問合アリタリ右一行ハ四月二十日前後出発ノ予定ニシテ到底本邦ヨリ御差遣ノ時日モナカルベク在巴里適任者中ヨリ選抜方松井大使ヘ御訓令ノコトニ御決定ノ外ナカル可キカト思考ス折返シ何分ノ御回訓ヲ請フ

右団員指名ハ本件派遣ノ理由ニ顧ミ国際聯盟ニ於テ各国政府ト関係ナク之ヲナスモノトスル次第ナルニ付御含置アリタク又滞露期間ハ約三ケ月ナル可シト云フ

在仏大使ヘ転電セリ

四九一　三月三日　在仏国松井大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

国際聯盟理事会ニ於テ審議セラルベキ露国実情調査団派遣問題ニ対スル心得ニ付請訓ノ件

第三七四号（至急）　（三月五日接受）

第一三七号　（三月八日接受）

倫敦首相会議第十八

二月二十三日午前、前回出席者ノ外「ミルラン」氏及伊国外務大臣「シャルヤ」氏出席

露国問題

「ロイド、ジョージ」氏ハ「ミルラン」氏ノ再来ヲ欣幸トシ十九日午後ノ会議ニ於ケル露国問題討議ノ結果ヲ略述シタル後引続キ同問題ヲ議センコトヲ提議シ尚波蘭ヨリ近々「パテック」氏渡英スベキコト及「アルベール、トーマ」ヨリノ来簡（首相会議第十五ノ四）ニ言及シ「トーマ」氏ノ申出ヲ諾スルコトトセバ視察隊ハ自ラ雇傭者及労働者ヲ以テ組織セラレ随ッテ観察モ両極端ニ流ルルノ虞アリ故ニ確実公平ナル報道ヲ得ンガ為ニハ此ノ種ノ事務ニ練達セルモノヲ派遣スルノ要アル処其ノ目的ニハ国際聯盟ニ依嘱スルコト最モ機宜ニ適セザルカト添言シ之ニ対シ「ミルラン」氏ハ会議々長ヨリ過激派ト関係ヲ開始セザルコトニ一同合意シタル趣ノ声明ヲ聞キテ欣快ニ堪ヘズ以テ一面首相会議ハ過激派承認問題ニ関シ動揺シ居レリトノ風評ヲ絶滅スベク為ニ此ノ根本方針決定ノ上ハ他ノ諸問題モ自ラ解決ニ至

最高会議々長「ロイドジョージ」ヨリ国際聯盟事務総長宛

二月二十四日附書翰ヲ以テ聯合国最高会議ハ国際聯盟ノ分科タル国際労働局ノ考量中ニ属スル露西亜事情調査委員派遣問題ヲ審議シタルガ露西亜ノ現状ニ関スル公平正確ナル情報蒐集ハ最モ希望ニ堪ヘザル処該調査事業ガ国際聯盟事務局ノ管轄ノ下ニ遂行セラルルニ於テハ効果将来ニ大ナルヲ信ズ依ッテ茲ニ国際聯盟理事会ニ対シ実行ヲ着手セラレン事ヲ望ム旨申越シアリタル趣ニテ今般聯盟事務総長ヨリ理事会議長ノ命ニ依リ三月十二日巴里ニ於テ理事会ヲ開催スヘキ旨通知アリタリ就テハ当日本使同理事会ニ出席スルノ外無カルベキカト思考セラルルガ何等カ心得置クベキ事アラバ折返シ御回電アリタシ

在英大使ヘ転電セリ

四九二　三月五日　在英国珍田大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

二月二十三日午前倫敦首相会議ニ於テ引続キ対露政策ニ付協議ノ件

別電　同日珍田大使発内田外務大臣宛第一三八号

右会議ニ於ケル諸主張ノ調和策トシテノロイド、ジョージ氏提案

ルベシ先頃「パテック」氏来巴ノ際自分ハ私見トシテ波蘭ノ過激派ト講和スルニ反対ナル旨ヲ語リタル処「パ」氏ハ其ノ結果過激派ヨリ甚ダシキ不信任ヲ受クルニ至ルベキヲ恐ルル旨ヲ述ベタルニ対シ自分ハ其ノ却テ好都合ナルベキヲ告ゲタル次第ナルガ本首相会議ニシテ右自分ノ態度ヲ承認セラルルニ於テハ列国ハ当然ノ結論トシテ波蘭ニ対シ応分ノ助力支援ヲ与フルノ覚悟ヲ要スベシ同国ハ現ニ「マウゼル」銃入手方ヲ希望シ居ルノ実情ニアリ尚又調査委員派遣ノ儀ニ就テハ労働事務局ニ於テ独立シテ之ヲ行フ希望ナラバ異議無キ旨「トーマ」氏ニ回答スルコト然ルベク而シテ調査隊ハ主トシテ専門的調査ニ従事シ政治問題ニ携ハラザラシムルヲ要ス国際聯盟自身ヲシテ此ノ事業ニ当ラシムルハ延イテ同盟諸国政府ヲモ本件ニ関連セシムルノ嫌アリ甚ダ面白カラズト思考スト語リ次ニ「ニッチ」首相ハ前回所述ノ論旨ヲ繰返シ欧州目今政治上経済上難局ニ立チ南露ノ物資ヲ得ルニ非ズンバ物価ノ下落ヲ望ミ難シ而モ過激派軍ハ到ル処戦勝ヲ博シ亜細亜、欧羅巴何レノ方面ヨリモ同盟側ニ於テ攻勢ヲ受ルノ余地無ク従ッテ波蘭ニハ（脱）斥ケシメ之ニ軍事的支援ヲ与フルガ如キハ同盟側ノ能クスル

所ニ非ズ此ノ秋ニ当リ唯一ノ方策ハ早ク通商関係ヲ開クニ在リ曩ニ運輸ノ困難ニ言及セラレタルモ其ノ困難ハ日ヲ重ヌルニ随ヒ却テ増大スベシ只通商ヲ開始センガ為ニハ自ラ政治関係ノ再開ヲ必要トス可シ其ノ時機ヲ失シテ露独ノ提携ヲ見ルガ如キコトアラバ蓋シ嗟臍ノ悔アルニ至ラン歴史上凡ソ革命ハ当初狼藉ヲ極ムルモ軈テ鎮静ニ赴キ民主主義ノ確立ニ終ルヲ常例トス自分ノ観ル所ニテハ過激派政府ハ最早ヤ之ヲ承認シテ可ナル域ニ達セリ之ヲ以テ調査委員派遣ニ就テモ先ヅ露国政府ト政治関係再開ノ交渉ヲ始メ又派遣隊ノ安全ニ関シ保証ヲ取付クルノ必要アルモノト信ズト陳述セリ

茲ニ於テ本使ハ右露国政府トノ関係再開ノ問題ハ首相会議ノ既ニ消極的決定ヲ下セル所ニシテ今更再ビ討議ノ要ナキヲ述ベ尚「ニッチ」氏ガ西比利亜方面ニ於テ日本ガ過激派ニ対シ攻勢ヲ取ルノ意嚮ナキモノノ如ク諒解セラルルハ誤謬ニシテ自分ガ先ニ陳述セルハ貝加爾以西ニ攻勢ヲ取ラザルベキコト、日本軍ハ現ニ鉄道守備及「チェック」撤退援助ニ従事シ居ルコト、同盟側既定ノ方針ニ則リ日本ハ西比利亜ノ地方的政争乃至地方政府ニ干渉セズ専ラ守勢ニ出デ居ルコト竝ニ日本ハ此ノ上過激派ト対抗スルノ考ヲ抛棄シタルモノニ非ズト雖果シテ長ク現下ノ情勢ヲ維持シ得ベキヤ否ヤニ付真摯熟考中ナルコト等ノ諸点ナル旨ヲ説明シ次ニ調査委員ニ就テハ其ノ過激派政府ト無関係ナルベシト謂フコトニ於テ「ロイド、ジョージ」氏ト全ク同意見ナル旨ヲ述ベ要ハ只実地現場ニ就キ充分ノ調査ヲ遂ゲシムルニ在ルコトヲ指摘シ同事務局ハ国際聯盟内ノ一部局ニ過ギザルヲ以テ本事業ヲ国際聯盟ニ委嘱スルニ当リ此ヲ其ノ一部局ニ委ヌルコト無ク聯盟全体トシテ之ニ当ルコト然ル可キ旨ヲ注意シ尚特ニ過激派ト関係設定ノ意無キコトヲ明瞭ニシ置クヲ要スル旨ヲ陳述セリ

「ミルラン」首相モ亦「ニッチ」首相ノ提唱ヲ遺憾ナリトシ過激派ノ戦勝ハ事実ナリトスルモ露国ノ事常ニ人ノ意表ニ出デ到底見据ヲ付クルコト能ハズ又露国ノ物資ハ誠ニ必要ナレドモ之ガ取得ニハ数個月ヲ要スベシ今日同盟側ニ於テ其ノ態度ヲ豹変センカ徒ニ過激派ノ勢力ヲ増大スルノ結果ヲ招クニ至ルベシ若シ夫レ過激派ニシテ自ラ穏健穏和ニ傾ク時期到来セバ始メテ承認問題ヲ議シ猶遅シトセザルナリト述ベタリ

茲ニ於テ「ニッチ」首相ハ語ヲ重ネテ過激派ニ軍事的圧力ヲ加フルコトノ不能ヲ叙シ過激派ノ自滅ヲ待ツノ空論ナルヲ説キ四、五ケ月後ニ至ラバ事態却ッテ甚シク険悪ヲ加フベキニ付今ニ於テ感情及政略ヲ排シ襟度ヲ開キテ克ク現況ヲ視察シ露国ノ市場ニ接近スルノ方法ヲ講ズルコト急務ナリトテ過激派政府承認論ヲ唱ヘタルガ「ロイド、ジョージ」氏モ亦本件ハ前回会議ニテ既ニ決定済ナルヲ述ベ当面ノ議題ハ波蘭ニ対スル回答案及露国実情視察ノ二者ナリト謂ヒ前者ニ付テハ「ニッチ」氏ノ言ノ如ク波蘭ニ和ヲ卻ケンコトヲ勧ムル以上ハ単ニ銃三十万挺ヲ給スルノミナラズ飽ク迄同国ヲ援護スルコト必要ナリ然ルニ現今波蘭軍ガ露国版図内ニ侵入シ居ルハ実ハ過激派軍ガ「デニキン」「コルチャック」両軍ト戦フニ忙シク波蘭軍ニ応酬スルノ暇無カリシカ為ナル処若シ過激派軍ニシテ余裕ヲ生ジ波蘭軍ニ向ヒ之ヲ破ル如キコトアラバ同盟側ハ如何ニスベキカ是等ノ場合ヲモ考量セザルベカラズト語リ又露国派遣隊ニ付テハ「ミルラン」氏ノ意見ニハ同意スル能ハズ珍田大使所説ノ如ク労働事務局ハ聯盟ノ一部局ニ過ギズシテ本件ノ如キハ之ヲ聯盟自体ニ委托スベキモノト思考ス而シテ聯盟自体ニ委托スベキ理由トシテ(イ)一事務局ヨリモ世界ノ信用ヲ博スルコト厚カル可キコト(ロ)公平ノ点ニ於テモ然ルベキコト（調査事項ハ社会的、経済的及政治的ニ渉ルベキヲ以テ此点ハ特ニ重要ナリ）(ハ)国際聯盟ノ喜ブ所ニシテ其存在ニ確証ヲ加フベキコト等ヲ挙グルヲ得ベシト論述シ尚仏国革命ノ例ヲ引キテ露国ヲ軍国化スルノ危険ヲ縷述シタル後調和策トシテ別電第一三八号ヲ提出シ一同ノ講究ヲ請ヘリ

「ミルラン」首相ハ調和案ニ対シ一応ノ所見トシテ同盟国側ハ波蘭露（脱）条約ノ公平ナリヤ否ヤヲ審査セザル可カラザルノ困難ニ立到ル可ク又仏国革命ハ人権擁護ノ為已ムヲ得ズ暴行ニ出デタレドモ過激派革命ハ平民専制ノ宣伝ヲ事トスルモノニシテ「ロイド、ジョージ」氏ノ立論ハ要スルニ軍閥専制ヲ防ガンガ為ニ平民専制ヲ支援セントスルニ外ナラズ同盟側ヨリ発言シテ国際聯盟ニ調査委員ヲ派遣センコトヲ求メ従ッテ其調査ノ結果ヲ支持スルノ義務ヲ負フ如キハ到底左袒スル能ハザル所ナリ如何ナル形式ニ於テモ過激派ヲ承認スル時ハ文明ニ対スル危険此上アル可カラズ云々ト述ベ「ロイド、ジョージ」氏ハ然ラバ同盟側ノ発言トセズ「トーマ」氏ヘノ回答トシテ同様ノ趣旨ヲ陳ブルコ

トトセバ如何ト問ヒタルモ「ミルラン」氏ハ討議ヲ午後ニ譲リタシト述ベ散会スルコトトナレリ（二月五日）

在欧米各大使ヘ転電セリ

（別　電）

二月五日珍田大使発内田外務大臣宛電報第一二八号

二月二十三日午前ノ倫敦首相会議ニ於ケル諸主張ノ調和策トシテノロイド・ジョージ氏提案

第一二八号　別電

The Allies agreed that they should incur no further expenditure in Russia. They further agree to inform the Communities, bordering on Soviet Russia, and whose independence or *de facto* autonomy they have recognized, that they can not accept the responsibility for advising them to remain in a state of war with Soviet Russia. They are further agreed that they should make it clear to those Communities that the Allies can give them no support in the event of their refusing terms of peace offered by Russia which would be regarded as fair according to the general principles applied by the Peace

Conference to the settlement of Europe. If, however, Soviet Russia attacks them in order to obtain terms which according to these principles would be considered unfair, the Allies will support them to the utmost extent possible.

The Allies are further agreed that they can not enter into diplomatic relations with Soviet Russia, in view of the experiences of the past until they are satisfied that the horrors of the Bolshevist Regime have been brought to an end, and that the Moscow Government will conform its diplomatic practice to that of all civilized governments. Both the British and Swiss Governments were forced to expel the representatives of the Soviet Government whom they had admitted, because they abused their privileges in order to attack the established institutions of the country to which they were accredited. The Allies have further agreed that the trade between Russia and the rest of Europe, so necessary to the restoration of lower prices and normal conditions in Europe, should be encouraged as much as possible through recognized channel.

Finally the Allies are agreed that it is highly desirable to obtain authoritative and impartial information as to the conditions in Russia and they accordingly invite the Council of the League of Nations to send a Committee there to examine into the facts and publish a report upon them for the information of the world.

Chinda.

在欧米各大使ヘ転電セリ

四九三　三月七日　在英国珍田大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

二月二十三日午後倫敦首相会議ニ於テ引続キ対露政策ニ付協議決定ノ件

別　電　同日珍田大使発内田外務大臣宛第一五一号

前回会議ニ於ケル英国案ニ対スル仏国案

第一五一号　（三月九日接受）

倫敦首相会議　第一九

二月二十三日午後前回出席者以外在英伊国大使出席

一、露国問題

「ミルラン」氏ハ往電第一二八号英国案ニ対スル案（別電第一五一号ノ通）ヲ提出シ一同仔細ニ討議シタルガ英国案冒頭所載露国ニ対シ此上支出ヲ為サザルコトヲ言明セル一文ニ付主義トシテ此上露国ニ出兵シ出費ヲ重ヌルガ如キハ仏国モ之ヲ認メザルコトナルコト勿論ナルモ万一波蘭ノ侵入セラレタル場合ニハ自ラ出費ヲ免レザル可シトノ見地ヨリ仏国案ノ通リ削除ニ決ス

波蘭其他辺疆国ニ対スル回答振リニ付テハ仏国案ノ如ク単ニ戦争ト決シタル以上ハ支援ヲ与フ可シト云フハ露国ト通商開始ノ目的ニ背馳シ（伊）又実行ノ覚悟ナキ約束ヲ為スモノト謂ハザルヲ得ズ（英）等ノ抗議出デ尚「ロイド・ジョージ」氏ハ現ニ波蘭軍ハ露国版図内尚二百哩ノ地迄侵入シ居ル処斯カル遠征ト自国国境ノ防備トハ区別ヲ要ス即チ今後同盟軍ハ「デニキン」「コルチャック」「ユデニッチ」軍等ノ組織遠征ニ協力スル能ハザルコトヲ明確ニスルノ必要アリト述ベ「ニッチ」氏ハ孰レノ側ヨリ攻勢ヲ取リタルカハ主トシテ軍事専門上ノ問題タルト可キガ故ニ此辺ニ留意セザレバ辺疆諸国ヲシテ自ラ露国ノ攻撃ヲ誘致シ同盟国ノ

援助ヲ求メシムルノ虞アル可シト言ヒ結局確定案（往電第一一四号）前段ニ合意セリ

第二項過激派政府トノ将来ノ関係ニ関シ「ロイド、ジョージ」氏ハ単ニ「関係ノ開始」ト云ハズ「外交関係ノ開始」ト云フ可キコトヲ主唱シ「ミルラン」氏ヨリ寧ロ「承認スルコトヲ得ズ」トノ趣旨ニ改メンコトヲ述ベタルモ「ロイド、ジョージ」氏ヨリ戦前塞爾維亜ニ対シテ執リタル英国ノ態度ヲ援用シテ説明スル所アリ又「ニッチ」氏ヨリ伊太利ハ露国ニ商業的調査委員又ハ外交的調査委員ヲサク派遣スルノ必要ヲ見ルニ至ルヤモ知レズ従ッテ露国ヲ非文明国視スル文字ハ削除ヲ要ストノ趣旨ヲ縷述シ結局略々前顕確定案ノ形ヲ取ルコトトナリ尚本項末尾商業再開ノ点ニ関シ本使ヨリ念ノ為同盟側ヨリ露国ニ武器、軍需品ヲ輸出スルコト無シト了解シ差支ナキヤト述ベタルニ「ロイド・ジョージ」氏ハ英国ハ決シテ輸出セザル可シト確言セリ

第三項調査隊派遣ノ議ニ付英伊側ハ飽ク迄モ国際聯盟自体説ヲ固持シ「ニッチ」氏ノ如キハ直接聯盟ニ依嘱シテ一般政況経済状況ノ調査ノミナラズ将来露国ト経済的及政治的関係再開ノ可能ナリヤ否ヤノ点ニ付キテモ報告ヲ徴スルコトトス可シトノ極論ヲ吐キタルガ本使ハ過激派政府ノ政治的意嚮ヲ探ラシムルノ案ニハ到底賛同シ得ザルコトヲ述ベ「ロイド、ジョージ」氏ハ一旦本件ヲ聯盟ノ手ニ一任スル以上調査事項ハ全ク聯盟ノ意思ニ委セ仮令形式タルモ何等指令ヲ与ヘザルコト良好ノ成績ヲ得ルニ効アルベシト謂ヒ「ミルラン」氏モ譲歩シテ結局「カージン」卿ノ起案ニ基キ前掲確定案ノ形トナレリ

二、欧洲物価騰貴問題

「ロイド、ジョージ」氏提議ニ基キ本件ニ関シ各国側ニ於テ専門家ヲシテ騰貴ノ原因及救済方法ヲ講究セシムルコトニ決シ尚「ニッチ」氏ノ注意ニ依リ為替問題ヲモ同時ニ講究セシムルコトトナレリ

三、塞爾維亜兵ノ「アルバニヤ」侵入問題

「シャローヤ」氏ヨリ塞爾維亜兵ガ「ポ(?)ヤナ」迄侵入シタルコト及右ハ一昨年十月及客年一月ノ決議ニ反スルコトヲ指摘シ右撤兵ノ為手段ヲ講ズルノ必要ニ付英仏代表者ニ於テ緊急講究セラレ度キ旨ヲ記セル伊国側覚書ニ対シ会議ノ注意ヲ促セリ

在欧米各大使ヘ転電セリ（七日午後六時）

（別　電）

三月七日在英国珍田大使発内田外務大臣宛電報第一五二号

前回会議ニ於ケル英国案ニ対スル仏国案

第一五二号　別電

The Allied Governments have agreed on the following conclusions :—

If the political groups which border on the frontiers of Soviet Russia and whose independence or *de facto* autonomy they have recognized, were to approach them to ask for advice as to what attitude they should take with regard to Soviet Russia, the Allied Governments would reply that they can not accept the responsibility for giving them such advice. If, however, Soviet Russia were to attack them the Allies would support them to the utmost extent.

The Allies can not enter into relations with Soviet Russia in view of their past experience. It is only in the event of their arriving at the conviction that Bolshevik horrors have come to an end and that the Government at Moscow is ready to conform its methods to those of all civilised Governments, that the Allied Governments would consider the possibility of a change of attitude. The British and Swiss Governments have both been forced to expel representatives of the Soviet Government, whose presence they had admitted, because these had abused their privileges with a view to attacking the established institutions in the countries to which they were accredited. Commerce with Russia and the rest of Europe, so necessary for the amelioration of economic conditions in Russia as well as in the rest of the world, will be encouraged in every possible way without departing from the policy above difined.

Finally, the Allies are agreed in thinking that it is highly desirable to receive impartial and authoritative information on the present conditions in Russia. As a result they have noticed with satisfaction the intention of the International Bureau of Labour, the organ of the League of Nations, to send a Commission to Russia to enquire into and examine the facts under conditions

which will give a full guarantee of the impartiality of its enquiry and whose report will be published.

Chinda.

在欧米各大使へ転電セリ

四九四　三月九日　在仏国松井大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

露国実情調査委員会ノ派遣ニ関シ聯盟事務局ヨリ覚書接到ノ件

第四〇五号　（三月十一日接受）

往電第三七四号ニ関シ

聯盟事務局ヨリ三月六日附ヲ以テ本件計画ニ関スル覚書接到シタル処同覚書ニハ今般露西亜実情調査委員派遣ニ関スル聯合国最高会議ノ提議ヲ容認スルハ聯盟規約前文冒頭ノ文句並ニ第四条第四項及第十一条第二項ノ規定ニ鑑ミ聯盟ノ目的ニ適合スルコト何等疑ヲ容レザル所ニシテ該委員派遣ノ唯一ノ目的ハ単ニ情報ノ蒐集ニアルヲ以テ之ニ依リ何等露西亜ノ内政ニ干渉スルニ非ザルヲ述ベタル後来ル理事会ニ於テ決定セラルベキ同委員派遣ノ条件トシテ大要

㈠識見卓越ニシテ最モ輿論ヲ満足セシメ得ベキ人士中ヨリ本件委員トシテ七名若クハ八名ノ代表者ヲ選任スルコト

㈡労働理事会ニ委嘱同理事中ヨリ傭主及労働者ヲ代表スベキ二名ノ委員ヲ選任セシム

右ノ条件ニテ九名若クハ十名ニ上ル各委員ハ顧問一名及書記官一名ヲ帯同スルコトヲ得

㈢該委員ガ露西亜入国、旅行及調査遂行ノ自由ヲ有スル為予メ露西亜官憲ノ保証ヲ取リ付クルコト必要ナリ

㈣労働理事会ガ一月二十八日ノ会議ニ於テ発表シタル希望ニ従ヒ同理事会ニ委嘱シテ六名ノ委員ヲ選任セシメ露西亜ノ労働問題審査ノ為別個ノ委員会ヲ組織セシムルコト

㈤本件ノ委員会ハ其ノ出発約十日前ニ会合スベキコト、ヲ記載セリ

英、米、伊ヘ転電セリ

四九五　三月十日　在仏国松井大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

露国実情調査委員会ノ活動遂行ニ伴フ困難ニ関シ仏国国際聯盟局長内話ノ件

第四一五号　（三月十二日接受）

国際聯盟ノ遣露委員ニ関シ三月七日仏国国際聯盟局長「グウ」ハ本使ニ対シ大体往電第四〇五号ノ通リノ談話ヲ為シタル後本件遂行ノ困難ナル所以ヲ説キ先ヅ「ソビエット」政府ニ於テ如何ナル程度迄旅行調査ノ保証自由ヲ与フルヤ詳ナラズ結局委員ハ汽車中ニ起臥シナガラ情報蒐集ニ従事セザル可カラザルコトト思考セラレ従而右旅行区域モ比較的秩序整頓セル地方ノミニ局限セラル可ク或ハ又情報蒐集ノ材料ニ付テモ正確ナルモノヲ得ルコト困難ニテ例ヘバ「ソビエット」政府施設ノ実状ヲ国外ニ伝達スル虞アル向ニ対シテハ同地方ニ於テ容赦ナク之ヲ処罰ス可キニ依リ本件委員ノ求メニ応ジ若クハ「ソビエット」政府ノ許可ノ下ニ（不明）陳述ヲ信ズル者ハ僅ニ皮相ノ事実ヲ紹介スルニ過ギザル可シ元ヨリ之等遂行ノ方針並ニ之ニ対シ「ソビエット」政府ヨリ取リ付ク可キ保証ニ関スル詳細ハ来ル理事会ニ於テ充分審議決定セラルルコトト信ズルモ何レニスルモ非常ナル費用ヲ要ス可ク然モ僅二、三ケ月ニシテ所期ノ効果ヲ収メ得ルヤヲ疑フ旨ヲ語リタルガ三月九日本使発在英大使宛往電第二一九号ノ用談ヲ以テ「パレオログ」ニ面会シタル際本件ニ言及シテ仏国側人選確定セルヤヲ問ヒタルニ「パ」氏ハ仏国政府トシテハ大体政治家ヲ委員トセズ財政経済ノ問題ニ精通セル真面目ナル人ヲ選ビ之ニ「アンジェニウル」ノ如キ専門家ヲ随伴セシムル方針ナルモ愈々何人ヲ任命スベキヤハ未ダ確定シ居ラザル旨ヲ答ヘタリ

在欧米各大使ヘ転電セリ

四九六　三月十一日　内田外務大臣ヨリ在仏国松井大使宛（電報）

露国実情調査委員会ヘノ本邦参加ニ異議ナキ旨回電ノ件

第二一二号

貴電第三七四号ニ関シ参加スルニ異議ナシ尚我方派遣員ノ人選方ハ貴官ニ於テ珍田大使ト御協議ノ上便宜決定セラレタシ

在英大使ニ転電アリタシ

四九七　三月十三日　在瑞典国日置公使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

赤軍ニ敗レタルユデニッチ将軍ガ其敗北事情ニ関シ諜報者ニ対シ為セル談話ニ付報告ノ件

第四七号　（三月二十日接受）

「ユデニッチ」将軍ハ仏国駆逐艦 Intrépide ニテ両三日前

当地ニ来リ妻君ヲ待合セ仏国ニ向フ筈ニテ旅館ニ潜ミ居レルガ我諜報者ハ左ノ通リ報告セリ

将軍ハ極メテ朴訥武骨ノ軍人ニシテ多クヲ言ハザルモ其ノ言ハ悉ク信ズルニ足ルベキ印象ヲ与ヘタリ「ユデニッチ」軍ノ敗因ニ関シテハ赤軍ノ力優勢ナリシニ在リトシ世間当時赤軍ノ不規律、武器弾薬ノ欠乏等ヲ唱ヘタリシモ右ハ全ク誤解ニシテ彼等ハ豊富ナル給与ヲ有シ且勇敢機敏ニ闘ヘリサレバ「ユデニッチ」軍ノ敗北ノ主因ハ敵ノ優勢ニアリシモ英国艦隊及「エストニア」軍等ガ約ニ背キ「ユ」軍ノ運動ニ呼応セザリシコトモ一原因タリシト又英国ノ態度ニ対シテハ深キ怨ヲ抱キ居レリ即英国ノ彼ニ与ヘタル援助ハ凡テ全ク不徹底ニシテ例ヘバ銃ヲ与ヘテ弾薬伴ハズ「タンク」ノ如キモ六台ヲ得タルモ要部ノ機械欠ケ居リタル為用ニ立チシハ唯一台而モ其ノ一台スラ弾薬不十分ノ為実際用ヲ為サザリシ趣、「ユ」将軍ハ「エストニア」ト露西亜トノ関係ニ付露西亜ハ「エストニア」ノ物資ヲ買尽シ居レリ其ノ目的ハ一ハ需要アルニ依ルモ同時ニ之ニ依リテ「エストニア」ノ生活難ヲ惹起シ同国ヲ「ボリシェビキ」化セントスル政策ニ出ヅルモノナリト謂ヘリ尚「ユ」将軍以外ノ確ナル筋ヨリ得タル情報ニ依レバ曩ニ「ユ」軍ガ北進運動ヲ開始スルヤ「トロツキー」ハ「ロイド、ジョージ」ニ無線電信ヲ以テ「ボリシェビキ」ハ彼得具羅土ハ愚カ露西亜ノ半ヲモ英国ノ援助ニ依ル「ユ」軍ニ放棄スルコトヲ敢テ惜マズ併シナガラ「ボリシェビキ」ハ挙ゲテ印度ノ崩潰ヲ試ミ以テ英国ノ好意ニ酬イン覚悟アルコトヲ承知セラレ度シ云々右ヲ以テ英国艦隊ガ約ニ背キ「ユ」軍ノ運動ニ呼応セザリシ原因ト為スモノアリ

四九八　三月十四日　在仏国松井大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

露国実情調査委員ノ派遣問題ニ関シ聯盟理事会ニ於ケル討議報告ノ件

第四四二号　（三月十七日接受）

三月十日仏国国際聯盟局ニ於テ第三回理事会ヲ開ク、露西亜実状調査委員派遣問題ニ関シ同日午前ハ各理事（英、「バルフォア」、仏、「レオン、ブルジョア」、伊、「チットニ」、白、「イーマンス」、西、「キニョネス、デ、レオン」、伯刺西爾、「ダ、クンニァ」、希臘、「ロマノス」並本使）其ノ書記官及聯盟事務局職員ノミノ Réunion privée ニ於テ又午後ハ各理事、事務総長及「アルベル、トマ」ノミノ秘密会ニ於テ主トシテ㈠本件委員調査ノ目的　㈡之ニ対シテ与フベキ保証　㈢之ニ関シテ「ソビエット」政府ヨリ取リ付ク可キ保証　㈣聯盟派遣ノ委員ト労働理事会派遣ノ委員トノ関係等ニ付意見ヲ交換シタル結果大体ノ議纏リタルモ未ダ成案ヲ得ルニ至ラズ依テ十三日朝更ニ会見スルコトトナリタリ但シ委員ヲ出ス可キ国ノ振当ハ大体英、仏、伊、日、米、白、希臘及中立国ノ一ヨリ各一名之ニ労働理事会ヨリ派出ス可キ二名ヲ加フルコトニ決定セリ

右諸会合ニ於ケル議事ノ概要ハ別ニ電報ス可シ

在欧米各大使ヘ転電セリ

四九九　四月六日　在仏国松井大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

莫斯科政府及波蘭間ノ講和交渉開始ノ動キニ付報告ノ件

第五九八号　（四月八日接受）

往電第五六二号ニ関シ

一、「ワルソウ」電報ニ依レバ莫斯哥政府ハ三月三十日電報ヲ以テ波蘭ノ申出ニ係ル四月十日和議開始ノ件ヲ承諾スル旨並ニ即時ニ休戦条約ヲ結ビ且「エストニア」ノ一都市ニテ和議ノ交渉ヲ開キ度キ旨回答シ来レリト云フ

二、右過激派政府ノ回答ニ関シ「ワルソウ」新聞紙界一般ニ之ヲ以テ過激派ノ慣用手段タル譎計ニ過ギズトナシ休戦条約ヲ結ビテ波蘭軍ノ士気ヲ挫キ其ノ間ニ波蘭国境ニ兵力ヲ集中スル策略ナリト見做セリ

三、本件ニ関シ「ザビンコフ」が当館々員ニ語レル所左ノ通リ

自分ハ Pilsudski 大統領トハ年来知リ合ヒ同人ノ意中ヲ確ムル事ヲ得タルガ少クモ同人ノ意中ハ過激派トノ媾和ヲ欲シ居ラズ唯英伊両国政府ガ波蘭ニ対シ過激派トノ和議ヲ慫慂シタル行懸上莫斯哥ノ和議ヲ無下ニ退クル事能ハザレバ成ル可ク莫斯哥側ヨリ談判ヲ不調ナラシムル様苦心シ居ルモノナリ波蘭ニハ相当ニ過激派ノ分子アリ若シ莫斯哥政府ト和睦セバ現政府ハ其ノ地位頗ル困難トナル可シ今日迄ニ同国内ニ過激派ノ勢力旺盛ナラザルハ左記三箇ノ理由ニ依リタルモノナリ即チ波蘭人ハ独立回復後愛国的感情ノ盛ナル事及過激派ノ宣伝ニ使用シツツアル猶太人ニ対スル反感甚ダ強キ事並ニ波蘭軍ガ可ナリ精鋭ニシテ過激派トノ対戦

ニモ退ケヲ取ラザル事ナリ若シ莫斯哥ト和睦シテ軍隊ヲ復員シ愛国的感情ガ冷却スルニ至ラバ過激派ノ勢力ハ必ズ頭ヲ擡グルニ至ル可シ波蘭ガ過激派政府ニ提出シタル平和条件（往電第五一六号）中過激派ノ最モ承諾シ難キ点ハ媾和条件ヲ露国ノ民意代表機関ニ依リ批准セシムル事ヲ求ムル点ニアリ若シ過激派之ヲ承諾セバ年来ノ主義ヲ擲ッテ建国議会ヲ召集スルノ必要アル可ク此ノ点ハ到底「レーニン」政府ノ容認シ難キ所ナル可シ自分ハ両国媾和ノ前途ヲ寧ロ悲観シ居ルモノナリ云々

在英、独大使ヘ転電セリ

五〇〇　四月十九日　在仏国松井大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

南露反過激派軍ノ頽勢及クリミアノウランゲル将軍ヨリ過激派側ニ和議申出デシトノ情報ニ関スル件

第七〇三号　（四月二十一日接受）

南露反過激派軍ハ三月中旬以来過激派軍ノ為ニ全ク Novo-rossiisk 方面ニ圧迫セラレ其ノ軍ノ一部ハ「クリミア」ニ渡リ「デニキン」将軍ハ司令官ノ職ヲ辞シ「コンスタンチノープル」経由倫敦ニ去レリ「クリミア」ニテハ「ウランゲル」将軍統率ノ下ニ現在約一万六千ノ反過激派軍アル由ナルモ兵器糧食共ニ欠乏シ士気振ハサル有様ニテ到底戦闘継続ノ見込ナキニ依リ英国筋ノ仲介ニ依リ「レーニン」政府ヘ休戦ヲ提議シ「レーニン」政府モ之ニ応セン模様ナル趣、本件ハ「モスコー」無線電信トシテ発表セラレタルガ在巴里露国情報局筋ニテモ之ヲ肯定シ居レリ

五〇一　五月十八日　在伊国堀田臨時代理大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

露国ソヴィエット執行委員ヨリ国際聯盟ノ露国実情視察団歓迎ノ電報到達等第五回聯盟理事会議事ニ付松井大使報告ノ件

別　電　同日堀田臨時代理大使発内田外務大臣宛第五〇号（仮訳文）

右電報

第四九号　（五月二十一日接受）

松井大使ヨリ

第五回聯盟理事会ノ三

五月拾五日午後五時開会往電第四七号ノ六遣露視察団ノ件ニ関シ其後執行委員ヨリ別電第五〇号[註]ノ如キ電報（拾三日 Reval 発拾四日倫敦着）到達ノ旨事務総長ヨリ報告アリタルモ其ノ趣旨「タイムス」掲載ノ無線電信ト異ル所無キヲ以テ理事会ハ前日ノ決定ニ対シ何等変更ヲ加ヘズ

次ニ往電第七二四号所報理事会議事手続ノ討議ヲ開始セルモ何等成案ヲ見ルニ至ラズシテ予定時刻六時ニ至リ第一回公会ニ移ル会衆百余名議長「チットニー」ヨリ一場ノ挨拶ヲ兼ネテ理事会今日迄ノ討議事項中公衆ノ「インテレスト」アリト思フモノヲ選ビテ本公会ノ議題トシ他ハ聯盟刊行物ニ譲リタル旨ヲ述ベ左記議題及報告者順ニ依リ既報（往電第四七号及第四八号当該事項参照）ノ通リ報告且決議シ七時散会ス

一、婦人及小児売買問題　伯剌西爾代表者

二、「オイペン、マルメディー」ニ関スル独逸政府ニ対スル抗議　日本代表者

三、中央欧羅巴救済問題　英国代表者

四、国際法曹委員会報告　事務総長

五、西比利亜俘虜送還問題　伊国代表者

在欧米各大使ヘ転電セリ

註　別電第五〇号仏文ハ省略シ之ニ代フルニ当時外務省作成ノ仮訳文ヲ以テセリ

（別　電）

五月十八日在伊国堀田臨時代理大使発内田外務大臣宛電報第五〇号（仮訳文）

国際聯盟ノ露国実情視察団ヲ歓迎スル旨ノソヴィエット中央執行委員会決議ノ電報

第五〇号　（五月二十日接受）

千九百二十年五月七日露国「ソヴィエット」中央執行委員決議

「ソヴィエット」労農議員、赤衛軍及「コザック」軍等ノ中央執行委員ハ之レ迄「ソヴィエット」ノ露国ニ対シテ戦争ヲ為シ且健全地帯及防禦線ニ依リ之ヲ他国ト分離センコトヲ努メタルモ今日ニテハ大露国民ヲ絞殺セント試ムルノ無効ナルヲ認メタルコトヲ示スベキ諸国政府ノ行動ヲ歓迎ス中央執行委員ハ露国ノ現状ヲ視察スルノ目的ヲ以テ委員ヲ露国ニ派遣セントスル国際聯盟ノ決定ハ之ヲ国際聯盟ヲ組成スル国ノ一部分ガ露国民ニ対スル戦争政策ヲ放棄セントスル事実ノ発表ト認ム

国際聯盟ハ今日マデ其ノ存立ヲ公然露国民ニ通告スル為何等ノ手続ヲ為サザリシト雖モ中央執行委員ハ前記ノ決定ヲ歓迎スルモノナリ中央執行委員ハ同時ニ国際聯盟中ノ一国タル波蘭政府ガ中立国又ハ同盟国ノ領土内ニ於テ交渉ヲ為ス前ニ露国民ニ向ッテ挑戦シ次デ露国又ハ「ソヴィエット」ニ属スル「ウクライン」ニ於テ掠奪ヲ行ヒ而モ此ノ罪悪的政策ノ為ニ国際聯盟側ヨリ何等ノ障害ヲ受ケザルノミナラズ聯盟中ノ或ル国ニシテ「ソヴィエット」政府ニ対スル浮浪民ノ反謀ヲ常ニ支持シタルモノヨリ有力ナル援助ヲ受ケタルコトヲ玆ニ確認ス

「ソヴィエット」政府ハ露国ノ包囲ヲ解カレンコトヲ希望スルモノニシテ各国民ノ代表者ガ露国内ノ現況ヲ知ルハ其ノ最有利トスル所ナリ故ニ「ソヴィエット」政府ハ各新聞機関ノ代表者ノ露国ニ来ルコトヲ容認スト雖モ決シテ露国民ノ好意ニ背信セザル保障ヲ与ヘラレンコトヲ要ス「ソヴィエット」政府ハ英国労働組合ノ代表者ヲ露国実業組合ノ賓客トシテ之ヲ待遇シ代表者ハ露国ノ各方面ニ於テ微細ニ現状ヲ視察スルノ権能ヲ有スベシ

右ノ事情ニ基キ中央執行委員ハ国際聯盟ノ代表者ガ露国ニ来ルヲ主義上承諾スルコトヲ声明ス右代表者ハ「ソヴィエット」ノ露国領土内ニアリテ一独立国ノ境界内ニテ他国ノ代表者カ受クルト同様ノ待遇ヲ与ヘラルベシ国際法ノ完全ノミナラズ聯盟国ノ国交ヲ規定セル一切ノ原則ヲ監視スル所ノ国際聯盟国ガ代表者又ハ専門家トシテ露国政府ニ対シテ陰謀ヲ企ツルガ如キ人ヲ露国ニ送ラザルベキハ確実ナリト認ム

或ル聯盟国ハ「ソヴィエット」ノ露国ト戦争状態ニアル波蘭国ニ有力ナル援助ヲ与ヘ武器及教官ヲ供給セルニ依リ中央執行委員ハ軍事上ノ理由ニ因リ目下ノ所「ソヴィエット」ノ露国ニ挑戦シテ事実上中立ヲ放棄シタル国ノ代表者ノ加ハレル国際聯盟代表者ノ来ルコトヲ希望セズ中央執行委員ハ近キ将来ニ於テ赤衛軍ガ波蘭国ニ対シ露国トノ講和ノ有利ヲ感ゼシメ露国ハ程ナク平和ノ労働ニ戻リ戦争状態ガ余儀ナクシタル制限ヲ撤廃スルニ至ルベキヲ確信スルニ因リ国際聯盟代表者ノ入国時期ニ至リテ更ニ中央執行委員ノ召集ヲ要セサル為外務民選委員ト協力シテ国際聯盟代表ノ入露ヲ許可スル権限ヲ有スル「カマラヌ」、「カメネフ」「リトヴィノフ」及「クルスキー」ノ諸氏ヨリ成ル一ノ委員会ヲ任命セリ

中央執行委員会議長　カメネフ

同　書記官　エヌキッツェ

五〇二　六月十七日　在君府高橋陸軍少佐ヨリ福田参謀次長宛（電報）

ウランゲル将軍ノセメノフニ対スル態度及ウェルフネ政府ノ意図ニ関シ報告ノ件

第一四一号　（六月二十二日外務省写接受）

一、小官ノ出発ニ際シ「ウランゲル」カ「セメノフ」ニ附与スヘキ特権ニ関シ漏ラシタル所左ノ如シ

(イ)「セメノフ」ニシテ対過激派協同作戦及露国復興ノ目的ニ於テ「ウランゲル」ヲ承認セハ「ウランゲル」ハ「セメノフ」ニ日本及「セメノフ」ノ希望スル如キ特権ヲ与フ

(ロ)右ニ関シ小官ハ折返シ質問セシ処結局嘗テ「コルチャック」ガ「デニキン」ヲシテ自己ヲ承認セシムルトキ彼ニ与ヘタル所ニ準ヒ「セメノフ」ヲ極東露軍総司令官ニ任シ之ニ極東ニ於ケル軍事、外交及内政ニ関スル総テノ権能ヲ委セントスルニアリ

二、過激派無線電信及軍司令部ノ観察ヲ綜合スルニ「ウェルフネ」政府ナルモノハ全ク「モスクワ」政府ノ命令ヲ受ケ目下西方戦場ニ於ケル危機ニ際シ日本軍ノ積極的行動ヲ抑止センカタメ日本ニ対スル緩和策ヲ講セントシテ狡猾ナル手段ヲ弄シ之ニヨリ日本ノ撤兵及「セメノフ」ノ顚覆ヲ図リ其成功ヲ待テ満鮮ノ顚覆ヲ行ハントスルニアルコト明瞭トナレルノミナラズ浦潮政府ナルモノモ亦「モスクワ」及「ウェルフネ」政府ト連絡アリト伝ヘラル殊ニ最近波蘭及「ウランゲル」ノ軍ノ前進ニ依リ過激派内部就中其中心勢力間ニ動揺ノ色アリト伝ヘラルルノミナラス過激派トノ通商ノ開始ノ望ナキコトニ関シテハ聯合与国中漸次之ヲ了解スルモノアルニ至レリ

五〇三　六月三十日　在君府高橋陸軍少佐ヨリ福田参謀次長宛（電報）

ウランゲルガ全露政府組織及兵政両権統一ニ関シ実施シアル準備行動報告ノ件

高橋第一五七号　（七月二日接受）

「ウランゲル」カ将来ニ於ケル全露政府ノ組織及兵政両権統一ニ関シ実証シアル準備行動中主ナルモノ左ノ如シ

一、「ウランゲル」ハ未タ全露政府組織ノ時機ヲ決定セザルモ「コルチャック」ノ有セシ兵政両権ハ「デニキン」ヲ経テ当然自己ニ移リタルモノト確信シ在外各露国大使並ニ南露ニ於ケル各軍及各「コザック」ヲシテ自己ノ最高権力ヲ承認セシメタリ然ルニ「セメノフ」ノミハ未タ彼ヲ承認セザルヲ以テ「ウランゲル」ハ之ト確執ヲ生セザル如ク大ナル注意ヲ払ヒアリ

二、「ウランゲル」軍ハ其ノ名称ヲ露軍ト改メ過激派ヨリ露国ノ土地ヲ回復シ且露人ヲ救フヲ以テ其ノ目的トナス

三、露国ノ土地処決ニ関スル規定ヲ発布シ農民其他一般人心ノ収攬ニ努メツツアリ

四、外交部長「スツルベ」及財政部長「ベルナツキー」ハ五月以来巴里ニ在リテ財政ニ関スル諸問題ヲ処理シツツアリ

五、「ベルナツキー」ハ二十日巴里ニ於テ「ウランゲル」政府ハ露国ノ外債ヲ償還スヘク而シテ外国ニ在ル金塊及貴重品ヲ其ノ担保ト為スヘキコトヲ声明セリ又在外金塊ノ蒐収ニ努メツツアリ

六、英国カ南露援助停止ト共ニ仏国及米国ニ向ヒ少クモ経済的援助ヲ依頼シアリ

五〇四　八月二十一日　在仏国松井大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

ウランゲル政府ノ勢力範囲及閣員並仏国政府ノ同政府承認ノ事情ニ関シ報告ノ件

第一三四一号　（八月二十三日接受）

貴電第六三四号末段ニ関シ Wrangel ハ四月七日「セバストポール」ニ於テ南露政府ノ首長兼軍司令官トナリ爾来「デニキン」軍ノ残部ヲ糾合シ漸次戦線ヲ北ニ進メ現在ニ於テハ Tauride 県ノ全部 Ekaterinoslav 及 Don ノ南部ヲ其勢力ニ収ム最近 Don Astrakhan Terek 等ノ哥薩克（之等哥薩克ハ合同シテ議会ヲ（脱）ヲ「ドン」地方ニ及ボスコトヲ得タリ）南露政府ノ戦線ハ（不明）大 Epoglichersson ノ中央部ノ河口左岸ヨリ東ニ向ヒ Kakhovka ニ於テ Dnieper ヲ渡リ Tauride 県ノ北境ニ沿フテ Alexandrovsk ノ南ニ至ル夫レヨリ Ekaterinoslav 県ノ中ヲ東ニ貫キ Donez 炭坑地ヲ経テ Kavmensk ノ南ヲ過キ Potemkinsk ニ於テ「ドン」河ニ達スル線ナリ露国仮政府時代ノ露西亜外交官ハ協議ノ上目下欧米ニアル大公使ハ「ウランゲル」政府ノ代表者タルコトト決定シ居レリ南露政府ハ左記十三名ノ Secrétaires d'Etat ヨリナリ行政各部ノ長官又ハ次官ヲ兼任ス

Krivocheine（内閣議長）Struve（外務大臣）Troubetzkoi（外務次官）

Matoussevitch（大蔵次官）Bernatzky（大蔵大臣）Nalbadaff（商工大臣）Glinka（農務大臣）General Wiazmitinoff（陸相）General Nibolsky（陸軍次官）Tverskoy（内務）Tagantzeff（司法大臣）General Wiltultivsky（糧食補給大臣）Savitch（会計検査）

尚仏国政府ハ「ウランゲル」政府承認ノ公表書中ニ於テ同政府ハ国民ノ意志ヲ基礎トスル民主制ヲ採用スルコト竝ニ国民ノ同情ト後援ヲ有スルコト旧露国ノ債務ヲ承継スル声明ヲナセルコト等ヲ掲記セルガ過激派政府ノ勢力益々固定セントスル状況ニ鑑ミ反過激派分子ニ声援ヲ与フルコト及波蘭ノ急ヲ救フ為ニモ幾分之ヲ利用スルノ必要ハ此際同政府ノ承認ヲ決セシメタル動機トナリタルベク会々英国ガ波蘭ニ対シ過激派ノ平和条件ヲ承認スベキ旨単独ニ通告シタルコトハ其公表ヲ促進シタルモノト観測セラル本件ニ関スル外務省総務長官トノ会談ハ別ニ電報ス

在英米大使ヘ転電セリ

五〇五　九月十四日　在英国林大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

英国政府ハウランゲル政府ヲ承認スルコトナカルベシトノカーゾン外相ノ談話報告ノ件

第八〇八号　（九月十七日接受）

在仏大使宛貴電第七一三号ニ関シ十四日「カーゾン」卿ト談話中試ミニ英国政府ニテハ「ウランゲル」将軍ヲ承認スルガ如キコト無カルベキヤヲ尋ネタル処同卿ハ当初英国政府ハ「デニキン」残党保護ノ為「ウランゲル」ニ対シ援助ヲ与ヘタルコトアルモ其後同人ノ行動必ズシモ英国政府期待ノ如クナラズ爾来同人承認ヲ考ヘタルコト無シ過般仏国ノ同人承認ハ英国ノ毫モ関知セザル所ニシテ今後モ同様「ウランゲル」ヲ承認スルコト無カルベシト答ヘタルガ尚本使ノ質問ニ対シ波蘭ハ国内ノ疲弊ニ顧ミ又同時ニ「ソビエット」政府ニ於テハ其ノ兵力ヲ南露ニ集中セントノ希望

アルガ為両国政府「リガ」ニ於ケル談判ハ効果ヲ結ブニ至ルベク推測セラル談判両当事者ノ希望同一ナル時平和成立ニ到着セザルノ理ナカルベシト答ヘ頗ル楽観ノ様子ニ見受ケタリ

在仏大使ヘ転電セリ

五〇六　十月十六日　在瑞典国畑公使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

労農政府ハ各国トノ平和克復及通商再開ヲ欲スル旨畑公使ヘ伝達方チチェリン外相ノ元秘書ヨリ在レヴァル北田書記官ニ依頼ノ件

第二四六号　（十月十八日接受）

北田ヨリ左ノ通リ

最近迄「チチェリン」ノ秘書ヲ勤メ先頃在「レヴァル」過激派政治部ニ来レル Jochel ハ十月十日人ヲ介シ極内密ニ左ノ如ク語レルヲ以テ参考ノ為聞置ク旨答ヘ置ケリ

労農政府ハ各国トノ平和速決ヲ欲シ芬蘭トハ十二日条約ヲ調印スベク波蘭ニ対シテモ非常ニ譲歩シ羅馬尼トモ妥協セント欲ス労農政府ノ今後取ラント欲スル一大方針ハ互ニ他国ノ内政ニ干渉セズ経済交通ヲ行フニアリ西欧諸国ニ早晩ノ為実行困難ノ点多シ労農政府ハ英国ニ打撃ヲ与ヘ平和ヲ促進スル為波斯「アフガニスタン」印度土耳古等ノ革命運動ヲ援助シツツアルガ是等東方諸民族ガ欧洲ノ資本主義ニ反対シ独立運動ヲ起スベキハ自然ノ勢ナルヲ以テ英国ニシテ労農政府ヲ承認セバ直ニ東方諸国民ニ対スル宣伝及援助ハ之ヲ停止スベシ

労農政府ノ承認ヲ拒絶セル米国ノ「ノート」ハ「ウィルソン」個人ノ意見ニ過ギズ同氏ノ退職モ遠カラザル今日左程重要ノ意味無シ共和党中ニハ労農政府接近論者多ク民主党首領ニモ同論者アリ米国資本家ハ英国ニ後レズ露国ニ投資セントシ Vanderlip ノ代表者ハ在「レヴァル」露国商業委員ノ推薦ニ依リ既ニ入露シ目下欧露西比利亜等ニ亘リ経済的調査ヲ為シツツアリテ英米競争ノ有様ナリ仏国ハ露国向貨物ヲ製産スルコト少キヲ以テ将来露国トノ経済関係頗ル薄キニ至ルベク現在ニ於テハ労農政府ニ対シ最モ強硬ナル反対者ナリ

労農政府ハ日本トノ親善ヲ希望シ極東ニ於ケル日本ノ地位ヲ是認シ支那朝鮮ニ対シ侵略乃至煽動ヲ行ハザルヘク西比利亜ニ関シテハ経済協定ヲ結ビ樺太ニ関シテモ大譲歩ヲナス意アリ過般数回無線電信ヲ以テ日本政府ニ平和ヲ申込ミタルモ回答ナカリシヲ遺憾トス米国ハ西比利亜方面ニモ先鞭ヲ着ケントスルヲ以テ日本政府ハ此ノ際労農政府ト何等カノ接触ヲ保ツヲ有利トスベク右ハ元ヨリ英国其他ノ対露通商談判ノ成行ト密接ノ関係アルベキモ共産主義其ノ他ノ問題ヲ離レ単ニ通商ニ関スル専門的事項ヲ研究セラレテハ如何若シ日本政府ニ於テ露国ノ需要スル貨物代金決済方法投資条件等ニ付興味ヲ有スル次第ナラバ労農政府ハ又今後公式又ハ非公式ニ之ヲ通報スベシ就テハ右ノ趣「ストックホルム」畑公使ニ伝達方取計ハレ度シ

五〇七　十一月四日　在仏国石井大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

米国ノウランゲル政府援助ノ報道ニ付真相探索ノ結果報告ノ件

第一六九〇号　（十一月六日接受）

米国政府ガ対露政策ニ関スル八月十日附ノ覚書発表以来「クリミア」ノ「ウランゲル」政府ニ対シ米国政府ガ経済上ノ援助ヲ与ヘ居ルトカ時機ヲ見テ同政府ヲ承認スルコトニ決定シ居レリトカ種々ノ報道アリ当方ニテモ此種報道ノ社会的革命ノ起ルベキハ確実ナリト信ゼラルルモ右ハ各国民ノ自発的運動ニ委スルヲ可トスベク他国ガ労農政府ニ容喙セザルヲ条件トシ労農政府モ他国ノ革命運動ヲ煽動セザルベシ労農政府ハ芬蘭「バルチック」諸国及波蘭トノ平和条約ヲ厳守スベキハ勿論ニシテ波蘭ヨリノ脅威ニシテ除カルレバ国内ニ関スル経済生活ノ改善ニ全力ヲ注クベク赤軍ハ「ウランゲル」軍ニ対シテハ充分ノ自信アリ

目下露国内ノ経済状態ハ頗ル困難ニテ異常ノ努力ヲ要スルモ都市工業労働者ニハ引続キ相当ノ食物其他必需品ヲ供給シ得ベク交通機関ハ漸次改善サレ「トロツキー」ノ機関車修理計画ハ好成績ヲ挙ゲツツアリ千九百二十五年ニハ運輸計画ノ完成ヲ見ルベク所謂経済的破滅説ノ如キハ根拠ナシ

現ニ「エストニヤ」「ラトビヤ」人等ノ自国ニ引揚ゲタル者ニシテ二三ケ月ヲ経テ再ビ入露ヲ希望シ在「レヴァル」労農政府委員ニ許可ヲ願出ヅル者頻々タリ労農政府ガ内部ヨリ瓦解スルガ如キ事情ハ少クトモ存在セズ

英国ヨリ帰国シタル同僚ノ談ニ依レバ同国ノ工場中原料欠乏ノ為或ハ独露トノ貿易ナキ為閉鎖又ハ作業ヲ制限スルモノ少カラズト云フ英国政府トノ通商協定ハ平和交渉不成立

真相ニ付種々探索スル所アリタルモ多クハ「ウランゲル」政府筋ノ宣伝ニ止マリ未ダ具体的ノ事実ヲ突止メ得ザル次第ナリ

各方面ノ情報ヲ綜合スルニ

一、仏国政府自身モ「クリミア」政府ノ実力ニ付多クノ報道ヲ有セズ政府ノ派遣セル高級委員 Martel ハ漸ク十月中旬「クリミア」ニ到着シ政府ハ其報告ヲ待チ居ル次第ナリ

夏以来露国ト取引関係アル列国商業者ハ一ノ組合ヲ作リ南露トノ取引開始ニ付種々研究スル所アリタルモ現在ニテハ露国ヨリ輸出スヘキ原料品殆ド（脱）商取引ヲ行フ域ニ達セザルヲ覚リ右計画ハ無期限ニ延期セラレタリト云フ

二、南露政府ハ曩ニ貨物船三隻ヲ仕立テ大麦ヲ仏国ニ輸送シタルモ其目的ハ要スルニ景気附ケニシテ右穀類ヲ聚ムル為ニ政府ハ非常ノ努力ヲ為シ一般農民ハ食料不足ノ今日政府ガ穀類ヲ徴収スルコトニ少カラズ不平ヲ唱ヘタル状況ナリト

三、在巴里「サビツキ」ノ語ル所ニ依レバ「ウランゲル」政府ハ仏国ヨリ受取リタル軍需品ヲ以テ「クリミア」半島ノ国境ニ防備ヲ整ヘ軍事上ノ点ニ於テハ比較的安全ナルガノ戦線ヲ破ラレ「セバストポール」モ危殆ニ瀕スルニ至レリ之レ主トシテ過激派軍ノ兵力ノ急激ナル増加ニ起因スルモノナルモ又他方「ウランゲル」軍内ニ起レル内訌モ亦右敗北ヲ誘起シタル重大ナル原因ナリト伝ヘラル

「ウランゲル」軍敗北ノ結果トシテ避難民ノ撤退開始セラレ仏国軍艦及商船ハ「セバストポール」ニ繋留シテ軍事委員及仏国居留民ノ乗船ニ宛テ居レリ「エコー、ド、パリ」紙ノ報スル所ニ依レバ避難民ノ大部分ハ已ニ「コンスタンティノープル」ニ避難セル趣ナリ

五〇九　十一月二十二日　在寿府聯盟総会代表ヨリ内田外務大臣宛（電報）

ウランゲル政府没落後ノ仏国ノ対露政策ニ関スル件

第三九号　（十一月二十四日接受）

石井ヨリ

在巴里 Maklakoff ハ十八日仏国外務大臣ヲ訪問シ「ウランゲル」政府没落後ニ於ケル仏国政府ノ態度如何ヲ質問シタル処「レイグ」ハ之ニ答ヘテ仏国ハ今後「ウランゲル」政府又ハ其後継者ニ対シ支持ヲ与フルコト困難ナル旨ヲ述

如キモ政府ヲ囲繞スル分子ハ依然トシテ私利ヲ図ルニ忙シク其腐敗ハ「デニキン」政府時代ヨリモ甚シキモノアリ故ニ戦線ニ在ル将卒ガ右ノ事情ヲ知悉スルト共ニ次第ニ士気ヲ沮喪シ再ビ「デニキン」ノ轍ヲ践マントスルモノノ如シ

四、米国政府ハ「クリミア」ニ海軍将校ヲ派遣シ「ウランゲル」トノ連絡ニ任ジ形勢ノ推移ヲ注意シ居ル由ナルモ未ダ政府トシテ具体的ノ援助ヲ与ヘタルコトナキモノノ如ク米国赤十字社ヨリ同方面ニ材料ヲ供給シ又或種ノ日用品ヲ供給ス可キ申出ヲナシタルモノアル由伝ヘラルル処「サビツキ」ノ談話ニ拠レバ昨年十月米国「イホリス」ヨリ当時「デニキン」政府ノ商工部代表者タリシ同人ニ対シ物資供給ノ申出アリ昨今再ビ同一ノ申込ヲ「ウランゲル」政府ニ送レル模様アリト

五〇八　十一月十六日　在仏国松田臨時代理大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

ウランゲル軍敗北ノ情報報告ノ件

第一七四五号　（十一月十八日接受）

最近ノ情報ニ依レバ「クリミア」戦況ハ急転直下シ「ウランゲル」軍ハ十一月十一日一敗地ニ塗レ過激派軍ノ為ニ其ヘタル由新聞ニ報セラル本件ニ関シ「マタン」ノ Stéphane Lausanne ガ最近ノ消息ナリトテ芦田ニ語ル所左ノ通

「ウランゲル」ノ承認ニ付テハ「パレオローグ」ノ画策与ツテ力アルモノナルモ「ベルトロー」ハ此ノ際従来ノ対露政策ヲ緩和スル必要ヲ悟リ寧ロ英国ノ対露政策ニ接近スル意嚮アリ尤モ何分議会ノ空気カ過激派反対ノ色彩濃厚ナル為露骨ニ所信ヲ改ムルコト能ハザル立場ニアリ今後当分ノ間ハ傍観ノ態度ニ出ツル外ナカルヘキモ追々英国ト接近スル方針ト見テ差支ナカルヘシ云々